

Aoyama Business School 2026

ABS Information

青山ビジネススクール入学案内





CONTENTS

- ミッション／研究科長挨拶／3つのポリシー - 1
- 修了要件／授与学位／コース・授業時間帯 - 2
- 学生プロフィール - 3
- アドバンテージ - 4
- カリキュラム - 8
- 青山アクション・ラーニング - 9
- 科目紹介 - 16
- 寄附講座 - 18
- グローバルネットワーク - 20
- 授業外の学習機会 - 22
- 創造的リーダー - 23
- キャリアデザイン - 24
- 図書館棟 - 26
- ABSライフ - 28
- 修了後の学習機会 - 29
- 博士課程 - 30
- 同窓会 - 31
- 専任教員紹介 - 32
- 入試情報／学費・給付金・奨学金 - 34
- アクセス・キャンパスマップ・お問合せ先 - 35

Mission ミッション

青山ビジネススクール(ABS)は、キリスト教の教育理念にもとづき、社会的責任を果たし、地球市民として活動する創造的リーダーの養成と、時代をリードする研究活動を通して、豊かな未来を切り拓くことに貢献する。

Message from the Dean 研究科長挨拶

ABSへようこそ。ABSの使命は、社会的責任を果たし、地球市民として活動する創造的なリーダーを養成すること、そして時代をリードする研究活動を通じて豊かな未来を切り拓くことにあります。

グローバルスタンダードを充すその先進的な教育や学術活動が認められ、ABSのMBAプログラムは、国際認証機関EFMD(European Foundation for Management Development)Globalの認証を獲得することができました。更にはABEST21(The Alliance on Business Education and Scholarship for Tomorrow a 21st Century organization)の認定校でもあります。

ユニークなカリキュラム、スクールカルチャー、そして東京・青山というロケーションが融合した理想的な環境のもと、ABSはみなさんの人生に大きな足跡を残す学習体験を提供いたします。1年次は9分野にわたる必修科目にて基礎を学び(なおし)、1年次後半から2年次にかけては選択科目により専門的・実践的な力を養っていただくこととなります。国内の重要な 이슈 に特化したものから海外研修を含むものまで幅広い選択科目を取り揃えています。多くの先進企業による寄附講座(選択科目)を開講していることも特徴です。そして最後は実践的科目「青山アクション・ラーニング(AAL)」で学びの集大成をしていただきます。必修・選択・AALの三位一体により自身の変化を実感できることが本プログラムの最大の魅力でしょう。

さらにはグローバルなアカデミック・ネットワークを着実に成長させつつ、国際的学習体験を促進しているのも特徴の一つです。また、SDGs/ESG関連の研究・教育に注力し、在学生だけでなく、修了生、地元企業、社会への支援も続け生涯学び続けることができる環境づくりにも取り組んでいます。私たちは、多くの協力関係を築きながら、現状に満足することなく、常に実践的学習経験の質を向上するために努めています。

あとは、皆さんが私たちのコミュニティに参加し、人生で最高の2年間を過ごすだけです。皆さんが生涯学習のコミュニティに参加されることを願っています。



青山学院大学大学院
国際マネジメント研究科
研究科長 細田 高道

Our Policies 3つのポリシー

青山ビジネススクール(国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻、国際マネジメントサイエンス専攻)のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは、青山学院大学ウェブサイトに掲載しています。

▶ 国際マネジメント専攻URL https://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_abs/management/policy.html

▶ 国際マネジメントサイエンス専攻URL https://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_abs/management_science/policy.html

Outline 概要

》MBAプログラム修了要件

1. 標準修業年限(2年)以上の在学
2. 所定の50単位以上の修得
3. 英語能力の認定
※2025年度以降入学者は英語コミュニケーション科目を2単位以上修得。
 ※2024年度以前入学者はTOEIC 730点以上の取得、または本研究科が指定する講座の合格。

》授与学位

経営管理修士(専門職)
 Master of Business Administration (MBA)

》コース

ABSは、イブニングコースとデイトタイムコースの2つのプログラムを設けています。両プログラムは、カリキュラムや学位は同じですが、授業の時間帯や授業の内容が異なります。

コース名	授業時間帯	職業実務経験
イブニングコース	主に平日夜間と土曜日の授業を履修	入学までに3年以上の職業実務経験が必要
デイトタイムコース	主に平日昼間の授業を履修	職業実務経験の有無は問わないが、3年以上の経験を有することが望ましい

》授業時間帯

イブニングコースは、平日の夜間と土曜日に授業が配置されています。デイトタイムコースは、平日の昼間が中心ですが、平日の夜間と土曜日に履修できる授業もあります。

	月	火	水	木	金	土
1限 9:00~10:30	■	■	■	■	■	■
2限 11:00~12:30	■	■	■	■	■	■
3限 13:20~14:50	■	■	■	■	■	■
4限 15:05~16:35	■	■	■	■	■	■
5限 16:50~18:20	■	■	■	■	■	■
6限 18:30~20:00	■	■	■	■	■	■
7限 20:10~21:40	■	■	■	■	■	■

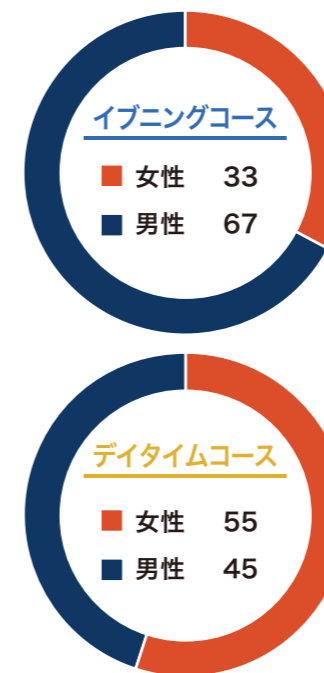
■ イブニングコースの時間帯 ■ デイトタイムコースの時間帯

Profile MBA学生プロフィール

※2025年度入学者のデータです。

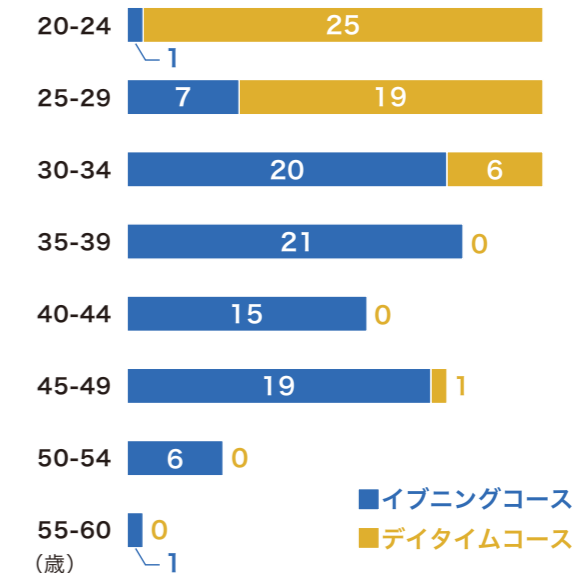
》男女比

(%)



》年齢構成

(人)



》平均年齢

(歳)

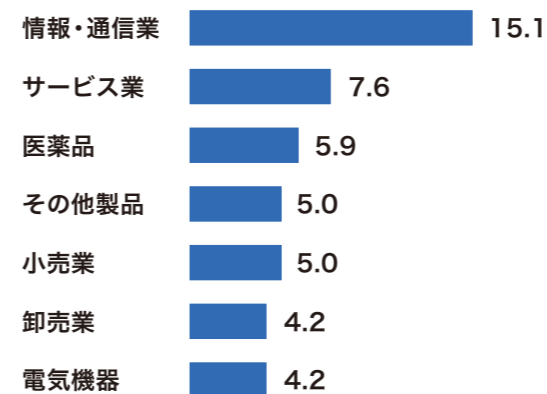
	女性	男性	合計
イブニングコース	39.7	38.8	39.3
デイトタイムコース	26.1	25.4	25.8
合計	32.9	32.1	32.5

》海外からの入学者



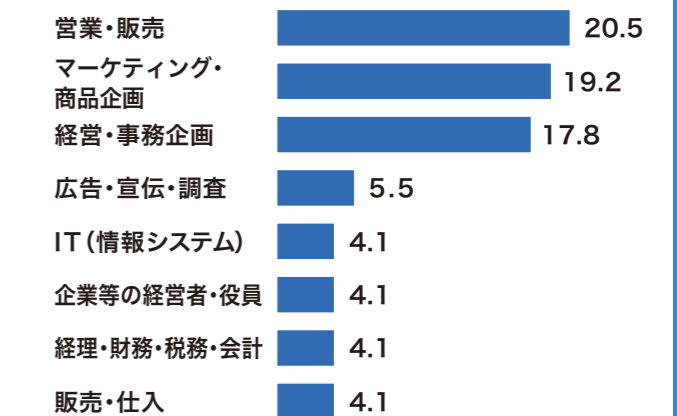
》業種 (イブニングコース)

(%)



》職種 (イブニングコース)

(%)



Advantage アドバンテージ

ABSは、「創造的リーダー」を数多く輩出するために、さまざまな教育プログラムを開発し、絶え間ない改善を続けています。また、学習効果や効率を高めるための環境も整っています。ABSのアドバンテージをご紹介します。

01 青山アクション・ラーニング

経営理論とビジネスの実践を結びつける 体験的学習プロジェクト

ABSは、グローバルスタンダードに基づいてカリキュラムを設計しています。海外のビジネススクールでは修士論文の執筆を不要とするのが主流です。このため、ABSも修士論文の執筆を不要とし、入学後に身に付けた知識をビジネスの実践に活かせるよう、体験から学びを得ることを重視しています。



02 グローバルスタンダードに沿ったカリキュラム

ABSの科目群は、欧米の一流ビジネススクールのカリキュラムを参考にして構成されています。専門分野を深く学ぶこともできますが、複雑化するビジネス環境において、総合的な観点から意思決定できる経営能力の養成に有効です。体系的なカリキュラムを通して、創造的リーダーに必要な幅広い知識の吸収が可能です。

03 経営全般を基礎から丁寧に学べる

ABSでは、経営全般の領域を網羅する9つの必修科目を設置しています。これにより、経営の経験や知識のない方でも安心して学ぶことが可能です。必修科目を履修した上で専門的・実践的な科目に進むことで、段階的に知識の習得、思考力・実践力の強化ができるカリキュラム設計となっています。



04 グローバル人材の育成

グローバルに活躍できる人材を育成するために、英語コミュニケーション科目（「グローバルコミュニケーション」、「国際営業と交渉術」など）や、「海外研修セミナー」「国際マネジメントセミナー」など、英語でビジネスを学ぶ科目を数多く設置しています。

05 歴史と修了生ネットワーク

ABSの源流は、1990年4月に設立された「国際ビジネス専攻修士課程」です。これは、わが国の私立大学では初めて夜間に社会人を対象にビジネスを教える大学院として設立されたものです。その後、2001年4月にはわが国私立大学初の専門大学院「国際マネジメント研究科」に改組され、さらに2003年4月には、専門職大学院「国際マネジメント研究科」となり、現在に至っています。

2020年に設立30周年を迎えた本研究科は、日本におけるビジネススクールの草分けとして、3,000人以上のMBAホルダーを世に送り出しており、修了生は実業界のさまざまな分野で活躍しています。

06 仕事と勉強を両立しやすい立地

ABSは、表参道から徒歩5分、渋谷から徒歩10分という利便性の高い場所にあります。大手町、新橋、品川、赤坂、新宿など東京の主要なオフィス街から30分以内で、仕事のパフォーマンスを落とすことなく学ぶことができます。また、産学連携・異業種交流を生み出しやすいビジネス環境です。



07 授業の質向上への取り組み

授業評価アンケート

ABSでは、基本的に全ての授業で履修者による授業評価アンケートを匿名で実施しています。アンケートの結果は全教員、全学生に公開されます。教員は、この結果を次年度の講義内容の改善に役立てます。ABSでは高い質の授業を提供し続けるプロセスを確立しています。



学生による授業評価

(5段階評価)



08 ビジネス倫理教育

ミッションに「社会的責任」「地球市民」というワードがあるように、ABSは企業の社会性を重視しています。「ビジネス倫理」を必修科目に配置するだけでなく、「ビジネス倫理とリーダーシップ」など、科目も充実しています。これは、現代のビジネススクールの世界的な倫理志向の潮流に倣すと同時に、自由と自律を重んじた青山学院の基督教の精神にもとづく教育の特徴でもあります。

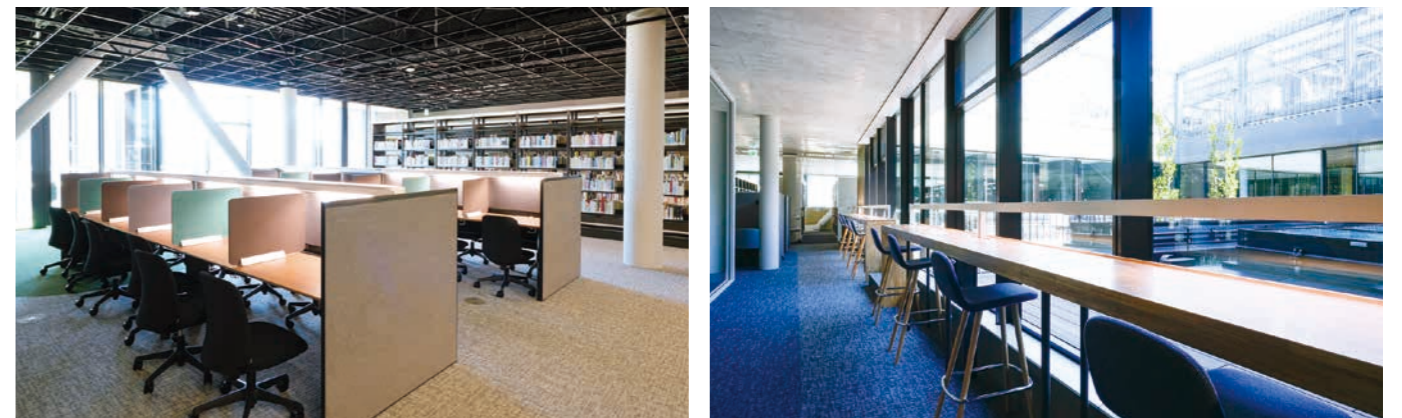
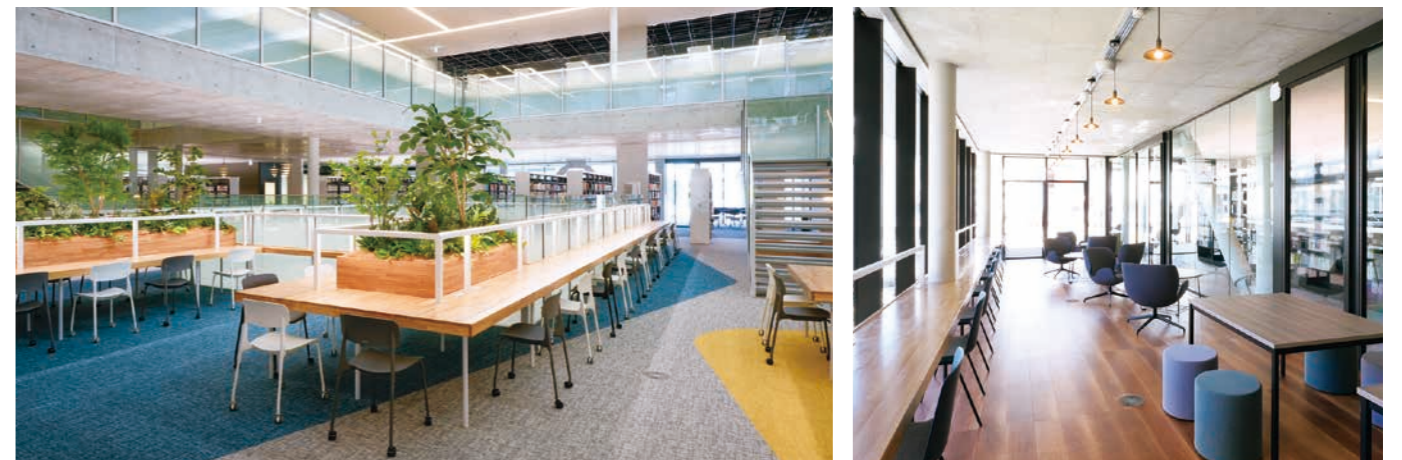
09 多様な科目、程よいクラスサイズ、丁寧な教育指導と関係性

ABSは時代や社会のニーズに対応するとともに、創造的リーダーを目指す学生の高い意思と自主的な学びの意欲にそって選択できる様々な科目を揃えています。その科目数・多様性・充実ぶりは他のスクールにはないABSならではの特徴です。(2025年度カリキュラム-必修科目(9科目)、基本科目(14)、英語コミュニケーション科目(11)、専門科目(56)、共通専門科目(25)、青山アクション・ラーニング科目(9)、合計124科目に加え、他研究科・協定大学院科目も履修可能)

また、各科目の受講生数もクラスディスカッションや問題意識の解決に適したクラスサイズになっており、教員と学生の関係性も深く、学生同士のコミュニケーションも充実しています。

10 学習環境

ABSでは、授業外の時間でグループワークを行うことができる演習室、個別学習が可能なMBA研究室、ケース教材などを印刷できるコピー室があります。さらに、2024年度からは新図書館が開館し、学習環境がさらに充実しました。



カリキュラム (2025年度)

必修科目	ビジネス倫理	組織行動とリーダーシップ	経営戦略		
	ファイナンス	マーケティング	アカウンティング		
	オペレーションズ・マネジメント	企業経営の経済学	統計分析Ⅰ		
基本科目	ビジネス倫理とリーダーシップ	ビジネス・フィロソフィー	文化と宗教から見るビジネスと倫理		
	異文化マネジメントとリーダーシップ	キャリアとリーダーシップ	ソーシャル・アントレプレナーシップ		
	デザイン・シンキング	ビジネスへの演劇アプローチ	プレゼンテーション・スキル		
	ビジネス・ゲーム基礎	マクロ経済学	マクロ経済データ分析		
	統計分析Ⅱ	リスク・マネジメントとコンプライアンス			
英語コミュニケーション科目	グローバルコミュニケーション(入門)	グローバルコミュニケーション(中級)	グローバルコミュニケーション(上級)		
	英語プレゼンテーション入門	国際経営とリーダーシップ	組織マネジメントとリーダーシップ		
	プロジェクトマネジメントとリーダーシップ	国際営業と交渉術	複雑性下のリーダーシップ		
	意思決定の経済学	国際マネジメントエッセンシャルズ			
専門科目	ストラテジー&オーガニゼーション				
	グローバル・マネジメント	ゲーム理論とマネジメント	計量経済学とマネジメント	競争戦略	企業戦略
	アントレプレナーシップ	人材マネジメント	人的資本経営	組織論とマネジメントのダイナミクス	組織デザイン
	戦略ロードマッピング	バーバス経営	マネジメント(上級)		
	マーケティング				
	消費者購買行動	マーケティング・リサーチ	ブランド戦略	価格戦略	ファッション・リテイリング
	マーケティング・コミュニケーション	CRM戦略	マーケティング意思決定モデル	地域活性化のマーケティング	地域活性化のプランニング
	戦略的マーケティング	セールス・マーケティング	サービス・マーケティング	マーケティング戦略	マーケティング(上級)
	ファイナンス&アカウンティング				
	コーポレート・ファイナンス	コーポレート・ガバナンス	サステナブル・ファイナンス	国際ファイナンス	インベストメント
	証券データ分析	財務会計	管理会計	タックス・プランニング	財務諸表論
	FAST	リアルオプションと経営戦略	マネジメントコントロール	ファイナンス(上級)	
オペレーションズ&情報システムズ					
ITと経営戦略	オペレーション戦略	サプライチェーン・モデリング	オペレーションズ・マネジメント・リーダーシップ	インターネット・ビジネス	
デジタル・マーケティング	ビジネスデータ分析	プロジェクト・マネジメント	オペレーションズ・リサーチ	経済性分析	
サプライチェーン・マネジメントの理論と実践	経営戦略とオペレーションズマネジメント				
演習科目					
国際マネジメント演習Ⅰ	国際マネジメント演習Ⅱ				
共通専門科目	統計的分析論Ⅰ	統計的分析論Ⅱ	リサーチ・メソッド		
	医療経済学	エンタテインメント・ビジネス	イノベーションと組織文化		
	地方創生実践論-神山プロジェクト	次世代デジタルイノベーションⅠ	次世代デジタルイノベーションⅡ		
	パブリックリレーションズ	コーポレート・コミュニケーション	知的資産型経営		
	イノベーションとアート	DXと組織・人材戦略	観光業とグローバルイノベーション		
	コーチングとリーダーシップ	サステナブル・コーポレート・マーケティング	ウェルスマネジメント		
	海外研修セミナーⅠ	海外研修セミナーⅡ	海外研修セミナーⅢ		
	国際マネジメント・セミナーⅠ	国際マネジメント・セミナーⅡ	国際マネジメント・セミナーⅢ		
	国際マネジメント・セミナーⅣ				
	青山アクション・ラーニング	マネジメント・ゲーム	アドバンスド・コーポレート・コミュニケーション	企業分析とファンド・マネジメント・シミュレーションⅠ	
	企業分析とファンド・マネジメント・シミュレーションⅡ	ビジネス・プランニング	マーケティング・プランニング・プロジェクト		
	SDGsコミュニティ・マーケティング	ソーシャル・イノベーション	グローバルアントレプレナーシップ		

※ABSでは他研究科科目(経営学研究科や法学研究科など)も選択できます。

青山アクション・ラーニング

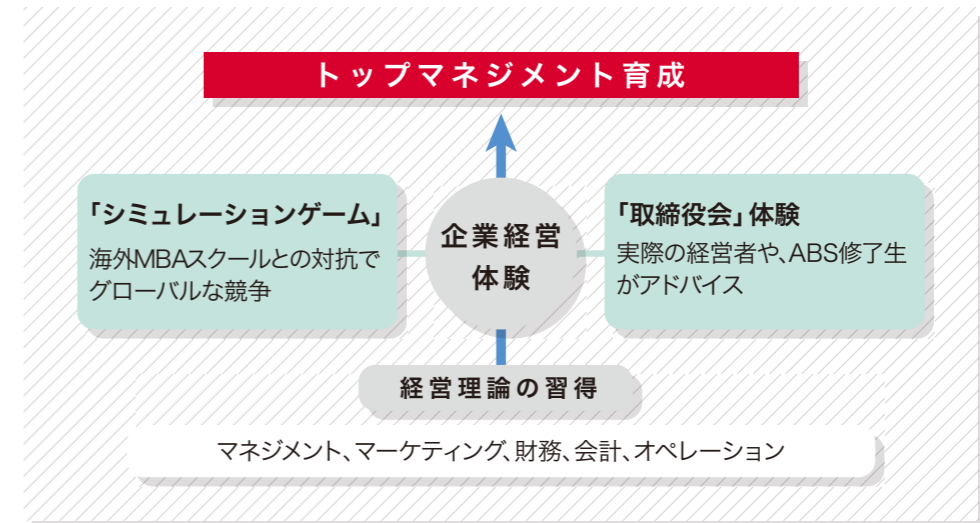
MBAプログラムは、経営を「マーケティング」「組織マネジメント」など機能別に分けて学習していきます。しかし、実際の経営では、それらすべてを考慮して総合的に意思決定しなければなりません。そうした経営能力を育成するために開発されたのが青山アクション・ラーニングです。それらは、いずれも講義ではなく体験から学ぶように設計されています。

マネジメント・ゲーム

Management Game

経営のシミュレーションで海外MBAと競争 模擬取締役会を体験しながら経営実践力を獲得

本科目は、原則として学生4~5名1組で仮定の消費財会社の経営を行います。カーネギーメロン大学など海外のMBAスクールの学生との合同のビジネスシミュレーションゲームを行い、グローバルな競争を体験します。全ての資料は英語で作成し、取締役会でプレゼンテーションを行います。本科目の目的は、マネジメント、マーケティング、財務、会計、オペレーションといった会社機能の全体を把握するとともに、経営者が直面する諸問題(経営計画の策定、取締役会での発表と承認、リスク管理、チーム内の動機付け、株主への情報開示など)を実際に経験することにより問題解決能力を向上させることです。



》 科目履修によって得られるもの

- 「経営者」として実務を経験できる
- 異なる経歴を持った学生たちによる組織づくりを経験できる
- 米国をはじめ世界のチームと直接競争を体験できる
- 取締役会用の英語による資料作成とプレゼンテーションを経験できる
- データに基づいた科学的な分析を経験できる

》 担当教員

- ・岩井 千明 (専任教員)
- ・福井 一枝 (非常勤講師)



青山アクション・ラーニング

ビジネス・プランニング

Business Planning

ビジネスアイデアの創出から事業計画の策定まで体験
起業や新規事業開発に求められるマインド、スキルや知識の習得
論理的、戦略的、実践的な応用を目指す

本科目は、少人数のグループに分かれ、新規事業の事業計画を作成することにより、社内新規事業やソーシャルビジネスも含めた起業する能力を育成することを目的としています。特に、理論と実践の融合を重視し、知の組織化と戦略思考からの実現性の高いビジネスモデルの開発と、顧客開拓を効果的に進めるマーケティング戦略の構築に重点を置き、新たなビジネスの創出を目指します。本科目の特色として、起業家やベンチャーキャピタリストをゲストとして招き、実務面からの評価も受けることにより、実践的な計画作成を行うことが挙げられます。

到達目標は、インタラクティブなグループワークにより、コンピタンスから競争優位をもたらすビジネスモデル戦略を策定し、また、顧客をつかむための実践的なマーケティング方法を見出すことです。グループとして、企業理念やビジネスアイデアの創出からビジネスプランの作成までのプロセスを各自が経験することにより、起業に必要な様々な能力の向上とスキルの獲得を目指します。

わかりやすく言えば、この科目は、MBAの応用的な視点から、自発的かつ創発的な学習と実践のループのプロセスを通じ、各自が起業の覚悟を固めるためのものであり、今後の未来社会を想像しながら、自らの将来について、どのように社会にインパクトを与えることができるのかを各自が自らに問うものと言えます。



》 科目履修によって向上が期待されるもの

- ☑ 知識の組織化によるクリエイティブなマインドと現状打破への起業家精神
- ☑ 理論を含めた論理的な戦略思考と、その厳しいビジネス現場の競争環境での妥当性を考慮した実践的な応用力
- ☑ 曖昧なアイデアを事業計画に落とし込む立案能力と、それをチームで磨き上げ、メンバーの共創により具現化する力
- ☑ ピッチコンテストなどを意識した上で、潜在的な投資家や顧客へのアイデアの売り込みのための説明力と、フォーカスを絞ったプレゼンテーション能力

》 担当教員

・中野 勉（専任教員）

アドバンスト・ コーポレート・コミュニケーション

Advanced Corporate Communication

IR活動、CSR・サステナビリティ、財務政策、ガバナンス体系の理解など
コーポレートコミュニケーション・オフィサー(CCO)の能力養成

本科目は、ジェイ・ユール・アイ・アール株式会社の寄附講座です。コーポレートコミュニケーションオフィサーに必要な知識と技能の会得が目的です。具体的には、①証券アナリストや機関投資家の投資分析方法、②投資家広報(IR)、③企業のサステナビリティ活動、④企業の財務政策、⑤長期の企業価値向上策やコーポレートガバナンス、⑥企業情報開示、⑦情報開示政策、⑧企業経営と資本市場との関係(コーポレートコミュニケーション)に対する理解を経て最後に総合的なプレゼンテーションを行います。

サステナビリティ経営などのアカデミア分野の第一線で活躍する学者や、社外取締役、ESG機関投資家、企業実務者などからご講演いただくと共に、学生とディスカッションを実施

■2022年度講義内容(抜粋)

- － IR に期待されていることと課題
- － アクティビストとの対峙
- － コーポレートガバナンスに対する考え方
- － 役員報酬ガバナンスの動向と課題
- － これからの企業報告とその課題
- － サステナブルファイナンス
- － サステナブルファイナンスの視点から求められる統合報告書・女性活躍と人的資本の開示
- － ESG 投資の概要と歴史
- － コーポレート・コミュニケーションの実際
- － 日本企業の ESG 取組に対する期待



》 科目履修によって得られるもの

- ☑ IR、CSR、ESG、SDGsについての理解
- ☑ 長期の企業価値向上策(長期経営計画)やガバナンス体制の理解
- ☑ 企業情報開示(統合報告やアニュアルレポート含む)の理解

》 担当教員

・伊藤 晴祥（専任教員）
・小方 信幸（法政大学大学院政策創造研究科教授、国際マネジメント研究科客員教授）
・岩田 宜子（ジェイ・ユール・アイ・アール株式会社 取締役会長、国際マネジメント研究科客員教授）

青山アクション・ラーニング

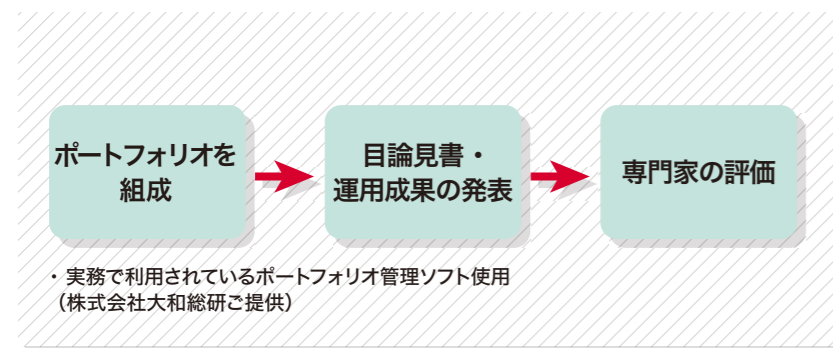
企業分析とファンド・マネジメント・シミュレーションⅠ・Ⅱ Business Analysis and Fund Management Simulation

企業分析・評価、ポートフォリオマネジメントの手法を習得 インベストメントチェーンにおける投資家・アナリストの視点で 企業を見る目を養う

本科目は、本研究科のMBAプログラムで修得した知識(特にファイナンス・アカウント分野の知識)の総まとめ的役割を果たす科目の一つとして位置づけられています。

企業分析をもとに業績予想、投資推奨を行うアナリストレポートの作成と日本株アクティブ運用の疑似体験を行います。講義を通じて財務分析・企業戦略分析の能力の向上を図るとともに企業価値評価の方法を習得することを目標とします。さらに、ポートフォリオの組成を通じて、銘柄選定方法を学ぶとともに、ポートフォリオ管理のためのリスク分析の考え方、パフォーマンスの評価の仕方について学びます。

毎月の運用成果についてはプレゼンテーションを行い、専門家の評価を受けます。本科目の対象はアナリストやファンドマネージャーを志望する学生のみならず、広く金融産業に従事する学生、あるいは機関投資家と対峙する事業会社の財務・IR部門に属する学生、実践を通じてファイナンス・アカウント科目を理解したい学生を対象としています。



》 科目履修によって得られるもの

- 財務諸表の理解とそれを踏まえた業績予想の実践
- ファイナンス理論の理解と実践
- 経営戦略の知識
- 企業評価の考え方
- 市場を通じた経済の動きについての理解
- リスク管理の考え方
- 統計手法

》 担当教員

- ・森田 充 (専任教員)
- ・大橋 英司 (専任教員)
- ・吉野 貴晶 (ニッセイアセットマネジメント株式会社 投資工学開発センター長、大学共同利用機関法人 統計数理研究所 リスク解析戦略研究センター客員教授、国際マネジメント研究科客員教授)

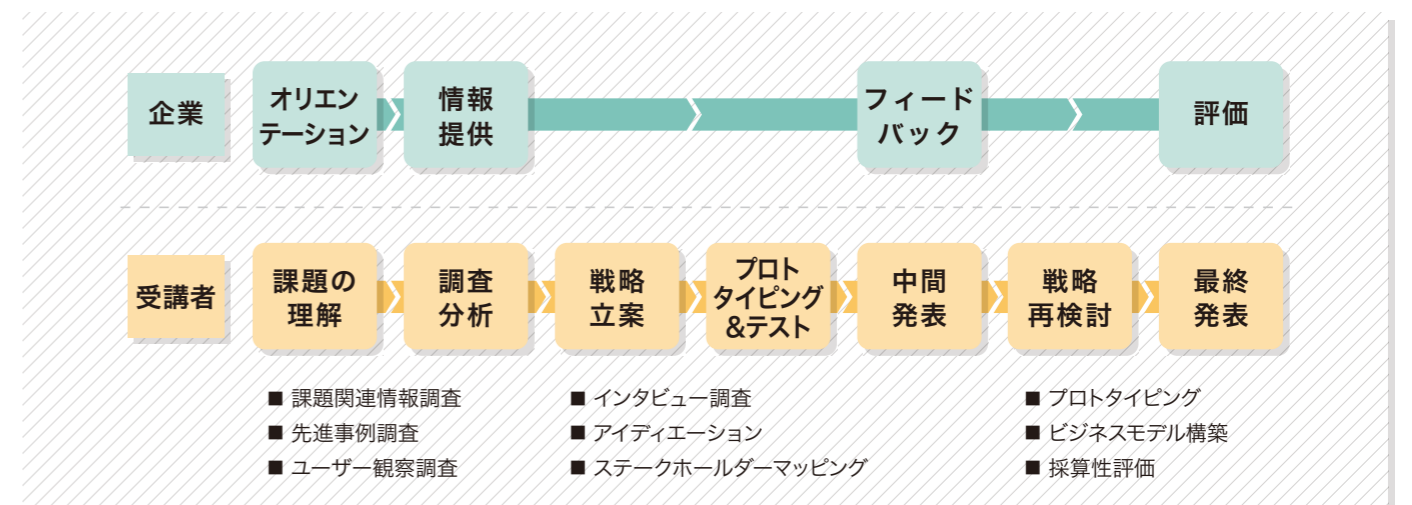
マーケティング・プランニング・プロジェクト Marketing Planning Project

企業のマーケティング課題へのコンサルティングプロジェクト

製品・サービス開発やブランディング、チャネル政策、コミュニケーション政策など、実際の企業のマーケティング上の課題に対して、チーム毎に調査・分析を行い、組み立てた解決策をその企業へ提示します。そのプロセスは、企業からのオリエンテーションで始まり、顧客のニーズを定量的および定性的に調査・分析したり、自社製品や競合製品を消費者の立場で使用したりと、フィールドワークを中心に実施します。また、先進事例の研究、マーケットリサーチ、デザインシンキングなども取り入れ、提案内容を吟味していきます。

最終的には、企業へ提案内容のプレゼンテーションを実施して、企業から評価を受けます。企業が提案内容を実際に実施する可能性があるため、企業側も真剣に対応してくれ、リアリティの高い学習が繰り返されています。

MPPの授業プロセス



これまでの主な連携先企業: 株式会社日立製作所(2023、2024)、株式会社ディー・エヌ・エー(2021、2022)、株式会社ティップネス(2020)、東神開発株式会社(2019)、株式会社パソナ(2018)、東京急行電鉄株式会社(2017)、株式会社明治(2016)、株式会社ティップネス(2015)、キーコーヒー株式会社(2014)

》 科目履修によって得られるもの

- 効果的なマーケティング戦略を計画する能力
- デザインシンキングでサービスを開発する能力
- コンサルティングプロジェクトをマネジメントする能力
- チームパフォーマンスを高める能力
- 提案内容を正確に関係者へ伝える能力

》 担当教員

- ・黒岩 健一郎 (専任教員)
- ・吉橋 昭夫 (サービス・デザイナー)



青山アクション・ラーニング

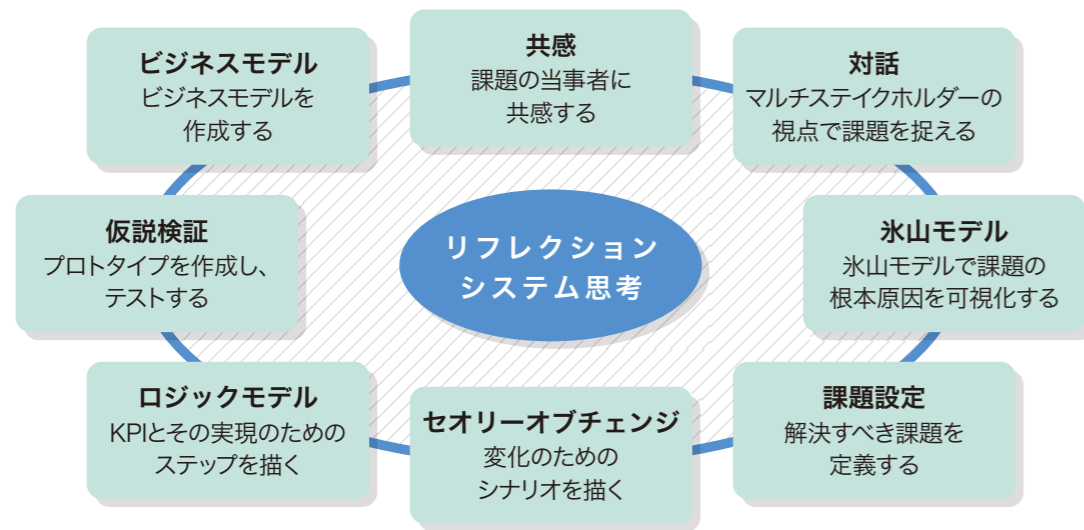
ソーシャル・イノベーション

Social Innovation

ビジネスマインドと起業家精神で、社会課題の解決に挑む

SDGsやESG、インパクト投資等が進み、ソーシャルとビジネスの境界線が低くなっている一方で、ソーシャルビジネスには、従来のビジネスとは異なるチャレンジがあります。社会課題の解決では、課題の当事者の靴を履き、マルチステイクホルダーの視点で課題を捉え直し、システム思考で課題の全体像を俯瞰することが欠かせません。また、創造的問題解決では、大局的な視点で変化を捉え、「変化の仮説」を描き、短期、中期、長期のインパクトを踏まえた上で、ビジネスモデルを構築することが成功の鍵を握ります。この線形ではない複雑な思考プロセスをチームで体験することは、ビジネスシーンにおける複雑な問題に対処する力を鍛える機会にもなります。

社会課題解決のための活動



>> 科目履修によって得られるもの

- 人間中心デザインに必要な共感力
- 氷山モデルを描くシステム思考力
- 多様なステイクホルダーとの対話力
- セオリーオブプロブレム、セオリーオブチェンジを描く力
- 社会課題を解決するビジネスモデルを描く力
- リフレクションを通して批判的に思考する力
- 仮説検証を行う力
- 社会問題に対する当事者意識

>> 担当教員

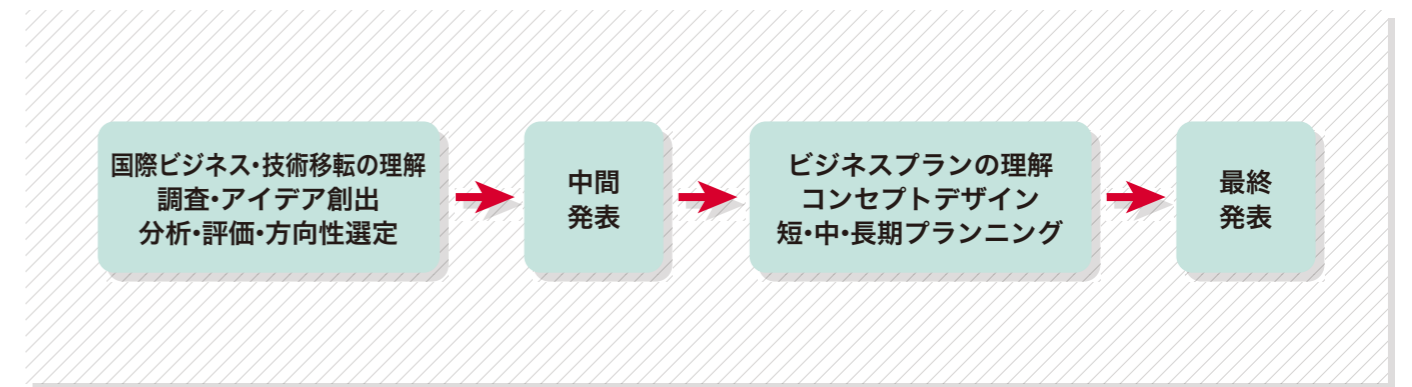
- ・熊平 美香（特任教授）
- ・小林 敦（非常勤講師）

グローバルアントレプレナーシップ

Global Entrepreneurship

グローバル市場を見据えたアントレプレナーシップに必要なスキルや知識を獲得

本講義では、国際ビジネス、技術移転、ビジネスプランニングにおける基礎と応用を学びます。具体的には、グローバル市場を見据えたビジネスにおけるアイデア創出、分析・評価、ポートフォリオ化と優先順位付け、戦略的方向性の選定、ビジネスプラン構築など、総合的かつ実践的にアントレプレナーシップの学修をします。成果としてのビジネスプランの確度を上げるため、国際機関や国内外の研究者・専門家、その他関連するステイクホルダーとの意見交換・ディスカッション・フィードバックを反映しながら進めるアクションラーニングを実施します。



>> 科目履修によって得られるもの

- グローバル市場におけるビジネス・テクノロジー・戦略・テクノロジーの理解
- 国内外の情報を収集し、当事者意識を持ってアイデアを創出してビジネスケースを構築・分析・評価する能力
- 異なるバックグラウンドを持ったグループメンバーと協働し、ポートフォリオ化と優先順位付けを行い、戦略的方向性を選定する能力
- 仮説検証を繰り返すことで実現可能なビジネスプランを構築し、また、多様なステイクホルダーとの対話を通して得たフィードバックをビジネスプランに反映する能力
- 国際的なコミュニケーションとネットワーク構築、また、アイデアを効果的に伝えて共感を生み出す能力

>> 担当教員

- ・廣瀬 雄大（専任教員）

科目紹介(2025年度 抜粋)

必修科目

経営戦略

経営戦略論のなかでも事業戦略について解説する。市場の分析、個別企業の分析、基本戦略など事業戦略の分析・立案に必要な技法を身につける。講義と事例研究に基づくディスカッションを交えながら、個別事業の責任者である事業部長の視点から事業戦略についての理解を深めてもらう。

マーケティング

マーケティングは、主に顧客にとって価値のある提供物を創造・伝達・配達・交換するための活動である。企業の成長を司る重要な機能で、経営に携わるすべての者が理解すべき分野である。この科目の目的は、マーケティングの基礎的な理論や概念を体系的に理解することである。さらに、それらの理論や概念を使って、マーケティング問題を解決する技能を養成することも目的である。

オペレーションズ・マネジメント

オペレーションズ・マネジメントにおける重要なポイントは、戦略とマーケットを意識しながら持つべき資産やプロセスを設定し、重要となるアウトプット(品質、コスト、適時性、多様性)間でのバランスを取りながら価値を創造し市場へと供給する過程をマネジメントすることにある。主に講義とケースディスカッションを活用して授業を進める。基礎的な知識や分析手法は講義にて学んでいただき、それらを活用しながら本質的な問題を発見し、本当に解くべき問題は何かを定義する能力を鍛え上げる機会をケースディスカッションにて提供する。さらに理解を深める為にミニ・ゲームやシミュレーションも実施する。

企業経営の経済学

企業経営を考える上で有用なミクロ経済学の基礎を学ぶ。講義では、消費者行動の結果として導かれる需要、企業行動の結果として導かれる供給、そしてそれらが出会う場である市場の役割を解説する。さらに、市場の競争状況に応じた企業の戦略や、企業組織内の問題を考察する上で有用な情報の経済学の基礎についても説明する。講義を中心に基本的な概念や考え方を整理し、適宜関連するケーススタディも紹介する。

組織行動とリーダーシップ

組織行動論は、組織におけるミクロの側面、つまり組織内の個人や職場の人間関係などを中心にしたもので、仕事の場面で日常遭遇する分野を対象とし、職場における人間行動・人間関係の理解を目的としている。組織の中で働くすべての人にとって、組織行動論は必須の知識である。本講義の具体的な内容は多岐にわたるが、進め方は基本的な理論の紹介をし、その応用として各種エクササイズやケース分析を行う。

ファイナンス

ファイナンスは、企業の財務的意思決定を扱う科目である。企業の資金調達から投資判断、収益の分配などのお金の流れに加えて、資本市場の役割や証券の評価など、その対象は多岐に及ぶ。本科目ではファイナンスの全体を概観し、主要な概念である時間価値やリスク・リターンを中心に、経営財務、証券投資、資本市場についての基本的な考え方を学ぶ。主なトピックスは、ファイナンスの目的と課題、現在価値、不確実性とリスク、証券投資の理論、企業価値評価、デリバティブ、プロジェクトの評価、資本構成と企業価値などである。

アカウンティング

アカウンティングは、企業が作成・公表する財務情報を分析するために必要な会計に関する基礎知識の習得を目的としている。具体的には、簿記に関する技術的な仕組みの理解をはじめとして、財務諸表を構成する基礎概念、財務諸表相互間の関係、財務諸表を分析するための基本的な手法等について理解を深めてもらうことである。授業では、広範な会計領域の中から、重要性が高いと思われる論点をピックアップして解説していく。

ビジネス倫理

現代の企業経営が直面している具体的な問題や課題をビジネス倫理の視点から分析して、受講者が自身の問題として捉え、解決の方向を模索することを目的とする。企業活動の倫理的側面について考察するために必要とされる倫理学の理論的フレームワークを学んだ後、企業と顧客、従業員、資本提供者、社会、環境との関係など、現代企業が直面する具体的な倫理問題について取りあげる。講義以外に討論やケース分析を行って授業を進める。

統計分析 I

私たちは日常生活やビジネスにおいてさまざまな統計データに触れることが多い。それらのデータを適切に要約し役立つ情報を引き出す記述統計、および、一部のデータから母集団について把握するための推測統計の基礎的な理論を習得し、統計学の見方・考え方を身につけ、意思決定を行うときの助けとしてもらうことを目的としている。



デザイン・シンキング

VUCAの時代には前例のない課題や未知の問題に対し創造的に考え新たな解決策を見出すことが常に求められている。「Design Thinking(デザイン思考)」はデザイナーがおこなう創造的な問題解決の方法を一般化して誰でもできるようにしたもので、海外を含めすでに多くのビジネススクールで講座が開講されビジネスの現場で実践されている。本講義ではDesign Thinkingをワークショップ形式で実践的に学び、必要なマインドセットと創造的な問題解決の方法を修得していく。

英語コミュニケーション科目

グローバルコミュニケーション(入門)

国際的なビジネス現場において英語は必要不可欠な言語の一つである。また、異なる文化背景を持つ人々の理解やコミュニケーションを行える能力も、そのような現場において重要となる。本科目では、異文化コミュニケーションの重要性の理解と、ベーシックな語学力(リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング)の向上に焦点を当て、グローバル・ビジネスに関連するトピックを用いたインタラクティブな演習を通じた学修をする。

専門科目

組織論とマネジメントのダイナミクス

ビジネス世界は、複雑に絡み合うフォーマル及びインフォーマルなネットワークにより展開されている。対面からオンラインまでが「つながる時代」を迎えた現在、眼に見えない関係性のダイナミクスが、組織のコミュニケーション、集団の意思決定、顧客との共創、経営の効率性に大きな影響を与える。100年以上の歴史を持つ組織論の流れを学び、関係性の視点からマネジメントを考える。古典から先端研究まで扱い、ディスカッションや分析を通じ、体系的な知識の習得と経営実務への応用を考える。

コーポレート・ファイナンス

企業価値を最大化するために企業がとるべき財務戦略を中心に議論する。そのため、企業価値評価手法の基礎と応用について講義を行う。具体的には、財務諸表分析、正味現在価値(NPV)法、収益還元法、市場乗数(Market Multiple)法、リアルオプション等を扱う。ファイナンス理論を実務へ適用する実践的な能力を涵養するためにケースメソッドを利用する。クロスボーダーM&A、LBO&MBO、ベンチャー企業への投資における財務戦略等のケースを扱う。行動ファイナンス、FinTech、InsurTech等、ファイナンス理論や実務の新しい論点についても授業内にて議論する。



サービス・マーケティング

近年、経済におけるサービスの存在感は、ますます高まっている。しかし、サービスのマーケティングは、財のマーケティングと異なる特徴がある。本講義では、サービスのマーケティングに関するいくつかの論点について、ケースメソッドで学ぶ。具体的には、サービス社会の到来、サービス・エンカウンターと顧客ロイヤルティ、サービスの品質と顧客満足、従業員との関係構築、サービス・リカバリー、サービス・マニユファクチャリング、サービスの経験価値・ブランド価値、需給マネジメントを取り上げる。それぞれの論点を議論できるケース教材を使い、議論を通して学ぶ。

競争戦略

本科目では上述の「経営戦略」では扱えなかった経営戦略論のテーマについて検討する。具体的には、産業ライフサイクル別戦略および多角化戦略、垂直統合、戦略的提携、M&Aについて扱う。本講義ではレクチャーと事例研究に基づくディスカッションを交えながら、企業経営者または事業部長の視点から事業戦略・企業戦略に関する理解を深めてもらう。

国際営業と交渉術

グローバル化とIT化の急速な進展で海外市場開拓の重要性がまっている。そして国際営業・交渉するスキルがますます求められている。たとえ簡単な英語であっても、国際営業の標準フォーマットにそった明快な論理構成をもっていけば十分に通用する。この科目では、そのフォーマットを学び、自社(自分)の状況に当てはめた国際的な提案営業ができるようにする。また交渉の仕方も学ぶ。本科目は講義、プレゼンテーション、ディスカッションを組み合わせた形で行なう。

オペレーション戦略

日々のオペレーションを効率よく稼働させ需要と供給が利益を生む形態でフィットさせることは持続的にビジネスを展開、または拡大することに必要不可欠であろう。しかしながら、需要側だけでなく供給側、そして外部環境においても不確定要素が多く存在するのがここ数年の特徴である。さらには、利益だけでなく持続的社会的実現という視点も重要視されるようになってきている。この授業では、より戦略的視点からオペレーションに関連する諸問題をケースディスカッションとシミュレーションを活用しながら深く考えていただく。理解を深める目的で、関係する理論や原理・原則についての講義も実施する。



ビジネスデータ分析

本科目ではデータ分析の専門家というより、データを利用してビジネス意思決定を行うことを目的とする。具体的には、①日々のビジネス活動の生産性の向上、②数値データに直接触れ合い、肌で現場の動きを知る、③勘や経験だけではない、意思決定能力を身につける。授業はPC教室で実際にマーケティング系のデータ分析を行いながら進行する。具体的には、Excel、SPSS、Rなどのツールを用いて、回帰分析、クラスター分析、主成分分析などを学ぶ。

管理会計

必修科目「アカウンティング」の知識を前提として、会計情報を経営管理に役立てる方法について学ぶ。戦略の実行を支える管理会計の仕組み、すなわち意思決定と業績評価の仕組みは、あらゆる組織において重要である。本講義では、営利・非営利の区別や業種を問わず様々な組織で利用される、管理会計の基本的な手法について解説する。具体的には、利益計画、予算編成、資金管理、差額利益分析、原価管理、事業評価などについて学習する。

プロジェクト・マネジメント

「独自の目標を設定し、それを期限までに達成させる一連の活動」がプロジェクトである。このプロジェクト活動では、ルーティンワーク(定常・継続業務)とは全く異なるマネジメント手法が必要であり、それが「プロジェクトマネジメント」である。本講義ではグローバル・デファクト・スタンダードであるPMBOK®のマネジメント手法をベースに、座学、ケースを活用したグループワーク、ビジネスゲームを通じて、知識の習得と体感でプロジェクトマネジメントを学ぶ。

基本科目

ビジネスへの演劇アプローチ

俳優の演技術をベースに、「身体」を有効に使う「演劇的視点」からビジネスを考えていく。緊張に縛られず、固定観念に囚われない柔軟で即興性の高いパフォーマンスが行えるよう、俳優トレーニングに用いられる手法をビジネスのコンテキストに合わせて講義し、体験する。また、自己から他者への「視点の転換」を試みる。最後に、プレゼンテーションにおける有効な言語非言語コミュニケーションとは何かを分析し、実習していく。

寄附講座

ABSでは、社会的責任(Social Responsibility)を果たす人材を養成し、広く社会に貢献していくため、企業・団体や地域との各種連携事業などを通して社会連携と貢献活動を推進しております。

寄附講座とは、民間企業などの外部組織から教育・研究振興のために寄付された資金や人材を活用し、研究教育活動を行うものです。2025年度は以下の12講座を開講しています。

※順不同

株式会社三菱UFJ銀行



ウェルスマネジメント

本科目では、ウェルスマネジメントの中でも、資産運用やファミリービジネスに焦点をあて、講義やディスカッションを通じ、理論と実際のビジネスにおける活用事例(実践)を学びます。企業のマネジメント、各分野の専門家等のゲストスピーカー登壇も交え、実践的なビジネス機会の捉え方について理解を深めることを受講生に期待します。

ESG研究所



地方創生実践論—神山プロジェクト

地方創生の先行事例といわれる徳島県神山町で、その推進役を果たしているグリーンバレー、神山つなぐ公社、神山まるごと高専の実践事例を具体的に学び、地域活性化の担い手人材を育成することを目指す科目です。現地で地域活性化に取り組む官民の実践者・専門家からのレクチャーを学生が現地に出向いて学び、実際の取り組み事例を現地で調査する形式での授業を行います。

ジェイ・ユーラス・アイ・アール株式会社



アドバンスト・コーポレート・コミュニケーション

コーポレートコミュニケーションオフィサーに必要な知識と技能の会得が目的です。具体的には、①証券アナリストや機関投資家の投資分析方法、②投資家広報(IR)、③サステナビリティ経営、④企業の財務政策、⑤長期的な視点に立った企業価値向上策、⑥コーポレートガバナンス、⑦サステナビリティ情報開示、⑧企業経営と資本市場との関係(コーポレート・コミュニケーション)に対する理解を経て、最後に総合的なプレゼンテーションを行います。

コーポレート・コミュニケーション

本科目は、アドバンスト・コーポレート・コミュニケーションの導入科目の位置づけです。機関投資家と建設的な対話を行うために不可欠なESG投資とサステナビリティ経営の基礎を、理論と事例を通じて学ぶ実践的な科目でもあります。企業のIR、CSR、サステナビリティ部門の業務に関心のある方、企業と市場の対話について学びたい方達の履修を歓迎いたします。

一般社団法人グリーンカラー・プラネット



次世代デジタルイノベーションⅠ・Ⅱ

「次世代デジタルイノベーションⅠ・Ⅱ」は、最新のAIを有するGoogle・AWS等の企業から専門家を招き、世界のBusiness Model Transformationを学んでいただきます。AI時代だからこそ人としての「言語化」を重視、自らが考える事業の未来物語を解像度高く言語化して最終発表いただきます。

企業広報戦略研究所(電通PRコンサルティング)



パブリックリレーションズ

パブリックリレーションズ(PR)とは、株主・従業員・顧客・取引先・地域社会などのステークホルダーとの合意形成や、メディアやネットを通じた世論形成を目指す、企業経営を円滑に進めるための重要な機能です。様々な経営要素とPRの関係を考察し、また多くの企業の具体的な事例を検証することにより、経営におけるPRの役割について議論を深めます。

株式会社東京きらぼしフィナンシャルグループ



知的資産型経営

激しい環境変化に対応すべく、企業は自社が保有するノウハウや技術、ネットワーク等無形の経営資源=「知的資産」から将来のキャッシュフローを生み出す新事業や経営の在り方を模索しています。本科目では、国内外企業や金融機関の取組事例を通じ、知的資産経営について学びます。企業の知的資産をどのようにデザインし、付加価値をどのように高めていくのかを考え、経営デザインシートを作成し発表することをゴールとします。

EY JAPAN



DXと組織・人材戦略

デジタルトランスフォーメーション(DX)を成功させるにはDX時代に合わせた新たな組織設計、多様な価値観やスキルを持つ人材の活用、デジタル人材の育成などが求められます。本科目はグローバルコンサルティングファームが保有する先進事例の共有や関連理論の講義を行い、最終的に自社のデジタル人材育成やその他組織・人事課題を解決するためのアクションプラン策定と発表をゴールとします。

株式会社ゴールドウィン



サステナブル・コーポレート・マーケティング

本科目では、ゴールドウィンが目指す「事業におけるサステナビリティ」と「環境におけるサステナビリティ」の両立を軸に据えて、経営戦略の一貫性と、多様なステークホルダーとの信頼構築の在り方を学びます。授業はケーススタディを中心に進行し、企業再生、ブランド戦略、素材開発などを横断的に扱いながら、企業のリアルな意思決定プロセスを体感していただきます。

ビジネスコーチ株式会社



コーチングとリーダーシップ

企業や組織が持続的に成長するためには、主体的なリーダーシップの発揮が必要です。コーチングは人材育成のみならずリーダーシップ開発にも役立つアプローチです。いま世界に求められているのは、全力でチャレンジするリーダーであり、変化を主体的に起こせる人材です。ディスカッションやワーク・ロールプレイを通じて、実践的なコーチングスキルの修得を目指します。双方向の対話を重視し、進行は丁寧に行います。

株式会社リンクアンドモチベーション モチベーションエンジニアリング研究所



イノベーションとアート

本科目は、「アート思考」によるイノベーションの創出を学ぶことによって、個々の新規事業の創出能力を開発するものです。「アート思考」とは、「自らの関心・興味を起点に、飛躍した革新的なコンセプトを創出する思考法」であり、現代アートのアーティストが作品制作するうえで発揮する思考法に由来します。学生が「アート思考」を実践できるように、アーティストとディスカッションを行い、アート作品の制作に取り組み、そのうえで事業プランを構想します。

Global Network グローバルネットワーク

ABSでは、海外のビジネススクールとの積極的な交流や、国際ビジネスに関する多彩な科目を通じて、グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成に取り組んでいます。さらに、海外ビジネススクールの教員を招いた授業や、各国大使館でのイベント参加など、正規科目以外にも異文化交流の機会が充実しており、学生のキャリアの国際化を力強くサポートしています。

海外のビジネススクールの教員による講義・セミナー

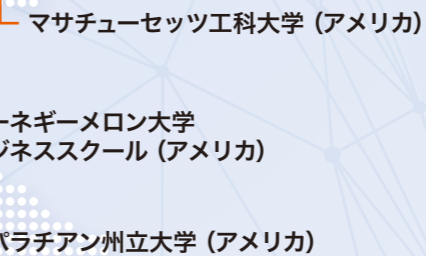
海外のビジネススクールなどから研究者を招き、授業内での講演や課外セミナーを通じて、最先端の知見に触れる機会を提供しています。



海外研修セミナー

約1週間の海外滞在を通じて、集中的に学ぶ科目です。現地ビジネススクールでの講義に加え、企業や行政機関の訪問を通じて地域特有のビジネスや文化について、深く理解することができます。

2024年度はマレーシアに渡航し、ハラルビジネスやイスラムファイナンスなどを学びました。



国際認証・加盟団体



2022年2月、ABSのMBAプログラムは、世界水準のビジネス教育を提供しているとして、国際認証機関よりEFMD Accredited MBA^{※1}の認証を取得しました。さらに、2025年3月には、日本のビジネススクールにおいては初の快挙となる5年間認証を達成しました。ABSのMBAプログラムは、世界水準の品質であることが国際的に評価されています。今後は、さらなるプログラムの質の向上や海外ビジネススクールとの交流が期待されます。

※1 ベルギーに本部があるビジネス教育の国際認証機関(European Foundation for Management Development)が世界水準のビジネス教育を提供しているMBAプログラムに対して行う認証



ABSのMBAプログラムは、2019年3月に国際認証機関ABEST21^{※2}による継続認証審査を受け、最高評価を獲得しました。この評価は、ABSが継続的に質の高いビジネス教育を提供していることの証といえます。

※2 The Alliance on Business Education and Scholarship for Tomorrow, a 21st century organization



ABSのMBAプログラムは、アジア太平洋地域のビジネススクールの連携組織であるAAPBS^{※3}に加盟し、海外ビジネススクールとのネットワーク拡充と国際的な学術交流の促進に取り組んでいます。

※3 The Association of Asia-Pacific Business Schools

授業外の学習機会

ABSには、授業以外にもさまざまな学習機会があります。講演会や海外のビジネススクールとの交流など、知的興味を刺激する企画が実施されています。

》 JBCCでABSが優勝

JBCC(日本ビジネススクール・ケース・コンペティション)は全国のビジネススクールが集まり、所定のケースについて課題解決の提案をおこなうコンペティションです。2022年度は全国25校から153チーム(711人)が参加し、ABSからは11チームがエントリーしました。ABSは2チームがセミファイナルに進出、うち1チームがグランドファイナルまで勝ち残り、さらには優勝しました。ABSでの学びが身を結んだと同時に、ABSが日本を代表する学びを提供できていることが証明されました。



》 各種フォーラム

企業が直面するさまざまな経営テーマについて、外部の専門家やABSの教員が講演する公開セミナーを定期的に行っています。在学生だけでなく、修了生や学外の方も参加可能な講演もありますので、是非ご参加ください。

これまで株式会社セブン&アイ・ホールディングス代表取締役社長の井阪隆一氏、LVMHモエヘネシー・ルイヴィトン・ジャパン株式会社代表取締役社長のノルベール・ルレ氏、彫刻家の名和晃平氏、ゴディバ・ジャパン代表取締役社長のジェローム・シュシャン氏、ウシオ電機株式会社代表取締役社長の内藤宏治氏、バンクオブニューヨークメロン証券株式会社代表取締役社長の千原いづみ氏、Zホールディングス株式会社代表取締役会長の川邊健太郎氏などが登壇されました。

また、キャリア・フォーラムやマーケティング・フォーラムなど、分野に特化したフォーラムも実施しています。

》 トモエ乳業株式会社の工場を見学

課外活動として中塚准教授による引率でトモエ乳業株式会社の工場見学会を開催しました。学生5名が参加し、2013年7月に操業した第二工場を中心に牛乳、乳飲料、その他各種飲料などの製造プロセスや製造設備、徹底した衛生管理、生産管理システムのご説明を受けました。今後も三現主義に従い、現地で、現物を見て、現実を知る学びの場を提供していきます。



Creative Leader 創造的リーダー

ABSで練った事業案を今、現実に

LINEの代表取締役を退任し、若い女性向けのメディア事業を始めました。実は、この事業はABSに在学しているときに考えていたことなのです。当時、ドメスティックなテレビ局に勤務していた私は、グローバルなメディアを作りたいと思っていました。経営戦略の授業などでは、グローバル企業が取り上げられることが多く、それらの学びを土台にして、事業計画を練り上げました。修了後すぐには事業化しませんでした。ソニーとLINEにおける業務経験を経て、より洗練された今の事業形態に昇華しています。

C Channelでの私の経営スタイルは、ABSで学んだ経営知識に、実際に経験してきた日本型経営と外資系型経営をミックスさせたものになっています。それぞれの良いところをバランスさせて、変化の速い経営環境に素早く対応できるようにしています。

このようにABSでの学びは、現在の私の経営手法に直接的にも間接的にも大きく影響を与えています。



森川 亮さん 1998年度修了
C Channel株式会社 代表取締役社長

1989年に筑波大学を卒業し、日本テレビに入社。システム部門配属後、新規事業プロジェクトを中心に幅広いメディア事業に携わる。勤務しながらABSで学び、1999年に修了。ソニーを経て、2003年にハンゲームジャパン(現LINE)に入社し、事業部長、取締役、副社長を経て、2007年に代表取締役社長に就任。2015年3月、同社代表取締役社長を退任。同年4月、C Channel株式会社代表取締役社長に就任。

思考のトレーニングで仕事の基礎力を確立

ABSに入学した動機の一つは、自分がビジネスの場でこれまで行ってきたことを棚卸しして整理し、残りの時間で何ができるかを見つけたいという思いがありました。また、現在では青山アクション・ラーニングとなっている実践的な授業があった点も、ABSを志望した動機のひとつでした。加えて、必修科目が充実しており、1年目はビジネスに必要な領域の知識をバランス良く学べました。苦手意識のあった分野に挑戦し、新しい発見もありました。それらの経験を通じて、さらに広い視点から仕事をしてみたいという気持ちが強くなっていきました。

会社で起きていることを把握し、的確に整理し、どのようにアウトプットに繋げていくのか、ABSでの勉強は頭の筋トレ的な部分があったと思います。仮説を立て、検証し、次に繋げていくという思考のトレーニングをさまざまな科目のカリキュラムを通じて行うことで、ビジネスの課題解決に必要な能力を体で覚えたような感覚です。企業の上級職は自分で判断しなければいけない局面が多々あります。ビジネスの知識は古くなりますが、このトレーニングは身についたものとして、現在も仕事の基礎力として役立っています。

※ 2021年度より「フレックス・タイムコース」から「イブニングコース」に名称変更

久野 浩子さん 2016年度イブニングコース[®]修了
森永乳業株式会社 常務執行役員
コーポレート戦略本部長

新卒で素材メーカー勤務後、証券業界にて証券アナリスト業務に従事。その後、外資系証券会社にてセルサイドアナリストとして医薬品・ヘルスケアセクターを担当。2002年より、国内医薬品メーカーで投資家向け広報担当し、2016年に森永乳業株式会社へ入社。2019年に広報IR部長、2020年に執行役員、2025年4月より現職。



キャリアデザイン

さまざまな学びの動機や目的でABSに入学し、2年間で多くを学修し、修了後にそれぞれの分野で活躍する方々をご紹介します。どういう意識で学修し、ABSでの学びを今のキャリアに活かしているかなど、あなたのキャリアデザインの参考にしてください。

》キャリアアップ／昇進

本田 恵美里さん 製薬会社勤務 2018年度イブニングコース※修了

本田恵美里さんは、社内の専門業務から担当変更で業務範囲が高まり、それまでの実務経験だけでは太刀打ちできないと感じ、ビジネススクールに進学したケースです。

本田さんご自身は「理系出身でこれまでは全く関わったことのない分野の科目が多く、課題やグループワークなどの時間のやりくりも大変でした」と語りますが、家族の協力もあり、2年間の課程を見事に修了しました。

学生生活を通じて、「学ぶということは、知識をつけていくというよりは、自分が知らないことがある、ということを知っていくこと」だと感じています。本田さんは、学生幹事会活動や「ABS Gathering」という学生自主運営の勉強会などに積極的に携わって、多くのクラスメートに出会い、「彼らの有能さにほれほれしつつ」と一緒に学べることの幸せをかみしめています。



》キャリアチェンジ／転職

木村 友子さん 東京エレクトロン株式会社 2021年度イブニングコース※修了



木村友子さんは、キャリアの大半を人事領域とされており、入学時は外資系ライフサイエンス企業に勤務されていました。海外の同僚の多くがビジネススクールを卒業しており、木村さんも社内メンターから入学を勧められたとのこと。人事領域以外にもビジネスパーソンとして必須の知識が多くあることは認識されており、勤務形態が柔軟で時間調整がしやすい環境だったことから入学を決めたとのこと。

在学中は会計・ファイナンスの授業を中心に履修されました。人事担当者として、経営層に対し各人事施策を財務諸表へのインパクトに紐づけて説明する上で必要な知識を身に付けることが出来たそうです。また、様々な業界・職種・立場の同級生から各社の人事関連の取り組みや人事部門に対する期待や要望を聞いたことは、1社に長く在籍していた自身にとって非常に新鮮で、今後のキャリア形成の新しい挑戦を考えるきっかけになりましたとのこと。

卒業後1年程経った時期に転職の機会がありました。思い切って踏み切ることが出来たのは、ABSで多くの刺激を受け、視野を広げることが出来たからではないかと振り返っています。

》起業

中屋 昌太さん 株式会社わたしのお教室 代表取締役社長 CEO 2016年度イブニングコース※修了

中屋昌太さんは新卒で入った大手広告代理店で大手企業の新規事業、商品開発を担い、ヒット商品の創出などで手応えを感じながらも「雇われない生き方」を目指します。後に上場した企業を含む複数社の連続起業を経て、教え手と習い手のマッチングサービスを提供する株式会社わたしのお教室を2015年に創業し、代表取締役社長 CEOとして現在も活躍中。

スタートアップ界隈に海外MBA出身者が多数いたことから、MBAに関心を持ち、ABSに入学しました。事業との両立で時間のない中、心がけていたのは、必ず最前列の真ん中の席に座る、履修可能な単位の上限まで履修する、得意分野であるマーケティングやIT以外の科目を中心に履修する、すべての科目でAA取得を目指す。とにかく妥協せず、集中して授業に取り組むその姿勢が、教授や講師、同級生などとのつながりをより深めていきました。

現在、代表取締役を務める会社の役員の一は、ABSの同級生であり、また、授業でお世話になった先生との継続的な関係も現在のビジネスに繋がっています。出資者にABSアルムナイの方もいます。現在のビジネスには、ABSの人的ネットワークがとても役立っています、と中屋さんは笑顔で振り返ります。



》事業継承

徳間 弘賢さん 株式会社M&Lトラスト 2016年度イブニングコース※修了

徳間弘賢さんは、不動産事業を営む会社を継承後、銀座で不動産管理事業を立ち上げてCEOとして経営していらっしゃいます。ABSには、事業継承を視野に入れて、経営全般に関わる知識を基礎から体系的に身につけたいと入学しました。広く経営に必要な知識を習得したうえで、青山アクション・ラーニング科目「ビジネス・プランニング」で統合的な事業計画を予め綿密に立てる重要性を学び、現在の事業に活かしていらっしゃいます。

銀座でご自分の事業を営むだけではなく、青年団体である銀実会のメンバーとしてイベント企画や防災対策などを実施し、銀座の街づくりにも深く関わっています。事業経営においても街づくりにおいても、人と関わるときには倫理やマーケティング、ファイナンスなど多面的な要素の検討が必要になりますが、それらをABSで体系的かつ基礎から応用まで学べたことで、顧客の役に立つ提案が出来ていると実感していらっしゃいます。



》デイトムコース修了生の活躍

原口 祐太郎さん 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 2018年度デイトムコース※修了



原口祐太郎さんは理系大学を卒業後、ABSデイトムコース※に入学し、修了後は証券会社に就職しました。入社後は、ファンドラップ業務やグループ横断的な資産運用ビジネスの企画業務に携わり、若手のうちから、プロジェクトマネージャを務めるなど、様々な案件で中核メンバーとして貢献されています。

ABSの魅力について原口さんは、教授陣と学生の距離が非常に近いこと、気軽に相談しやすく、親身になって最大限のサポートをしていただけるので、「とことん学びたい」「今しかできない挑戦をしたい」という人にとって最高の環境だと語っておられます。原口さんは、ファイナンス系の科目を中心に履修し、入社後も多くの知識が役に立っていると実感しているとのこと。当時は社会人経験がなかったため、社会人の多いイブニングコース※と共同の講義に積極的に参加し、実際のビジネスにおける考え方の習得を意識されたとのこと。その結果、大学卒業時よりも、明確な目的意識と業界・企業理解のもと、就職活動を行うことができた振り返っています。

》海外での活躍

西村 怜央さん ベカメックス東急有限会社(ベトナム) 2015年度イブニングコース※修了

西村怜央さんは、ベトナムのホーチミン市近郊のビンズン省での都市開発事業に、Business Group Executive Director として従事されています。実務経験を積むことによって見えてきた、自身の不足している知識を体系的に習得しようとABSに入学されました。必修科目「オペレーション・マネジメント」ではケース・スタディを通して様々なビジネス状況を追体験し、バック・グラウンドが異なる履修生とのグループワークを通じて、他者視点の取得を多く出来たと振り返っています。

実務現場において、マーケット分析を行う際にはフレームワークが思い浮かび、また分析結果からの提案内容を論理的に説明するスキルを手に入れられたと実感しているそうです。現在は約300名のスタッフを統括する日々ですが、ABSで得た学びをスタッフに教え伝えていく立場にもなり、現地の街づくり、すなわちコミュニティづくりに貢献していきたいと語られています。



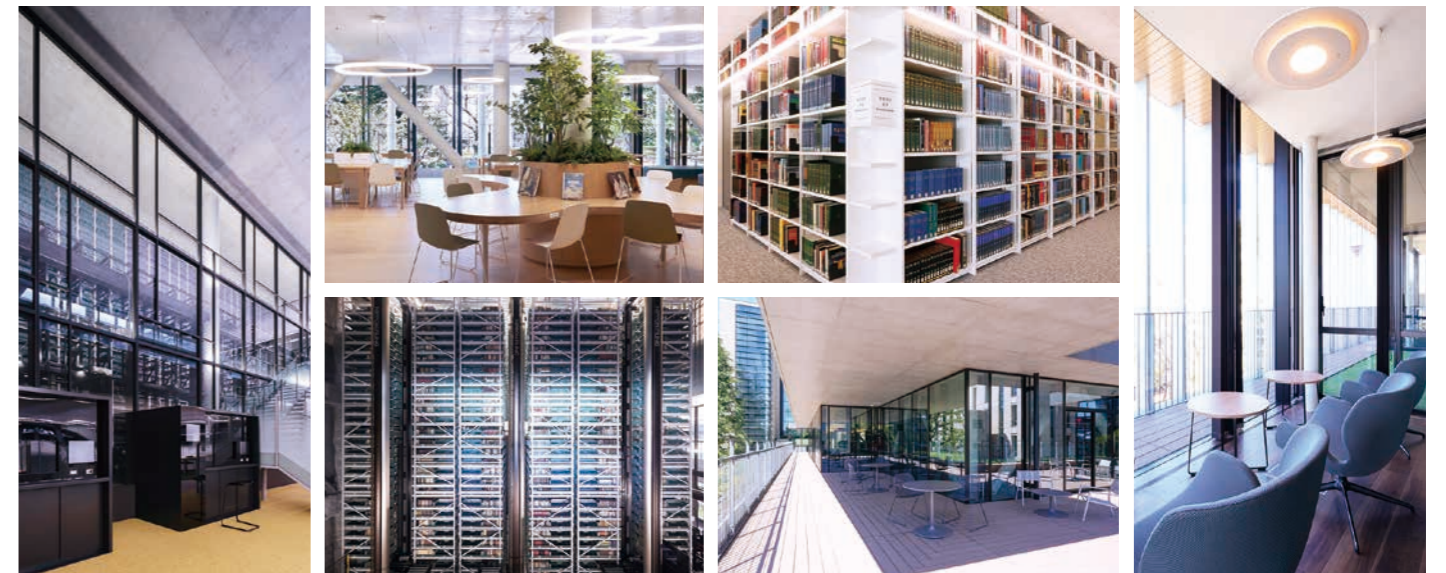
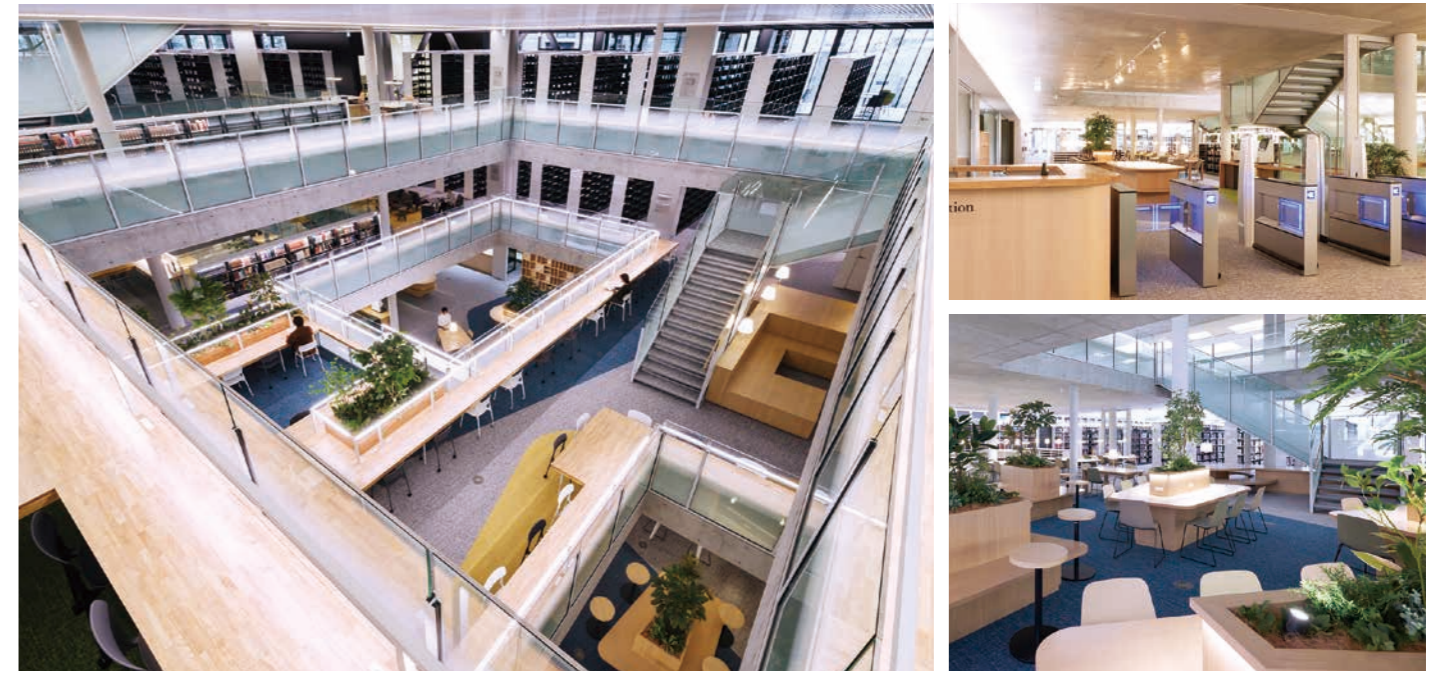
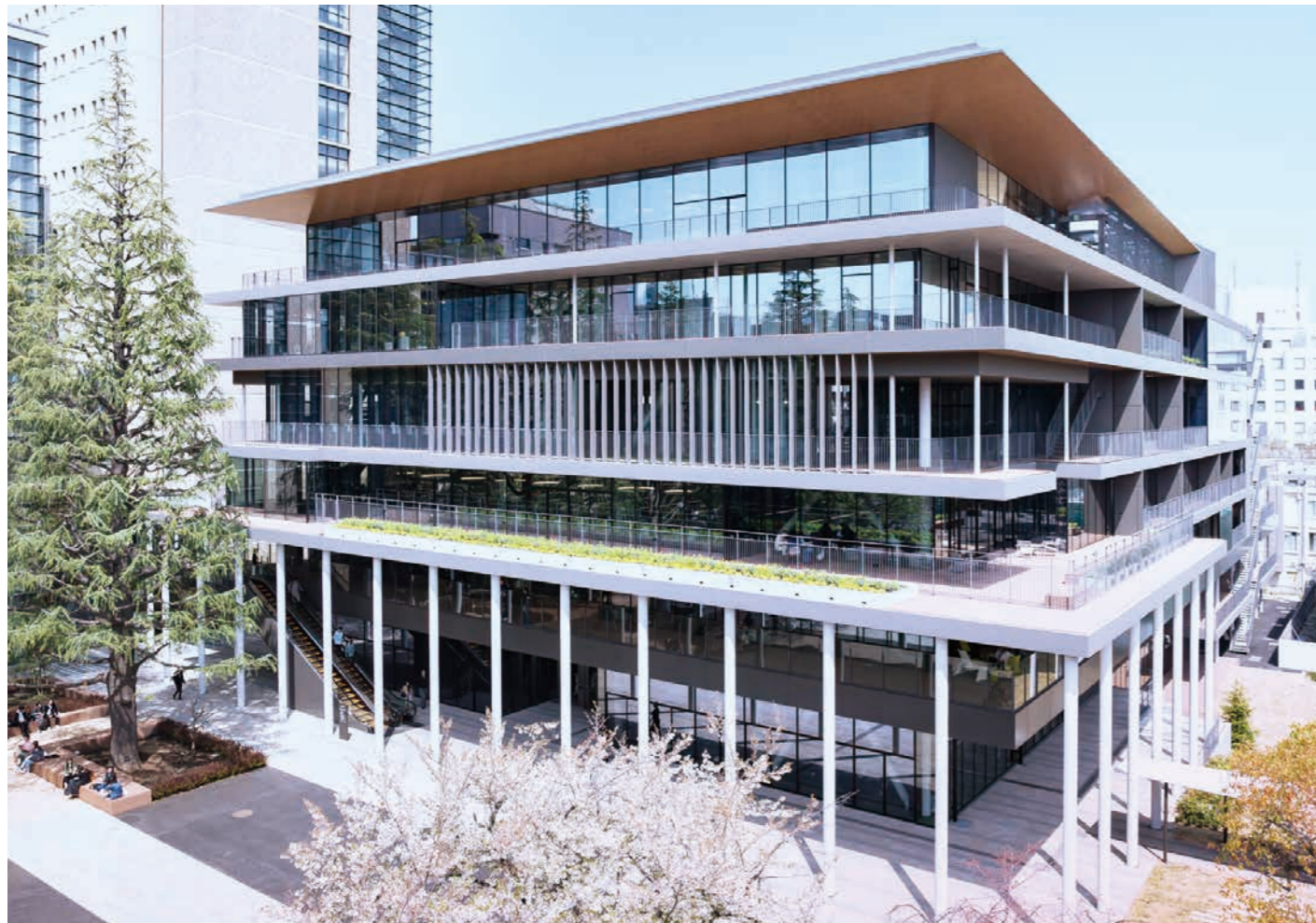
※ 2021年度より「フレックス・タイムコース」から「イブニングコース」に、「フル・タイムコース」から「デイトムコース」に名称変更

その他の「キャリアデザイン」は、ウェブサイトにてご覧ください。
https://www.aoyamabs.jp/message/voice_highstage.html



図書館棟「マクレイ記念館」

2024年4月、新しい図書館棟がオープンしました。学習・研究教育施設のさらなる充実にご期待ください。



》情報学習フロア

情報学習フロアは、“知との出会い”を実現する空間として、多種多様な教育活動を速やかに行えるよう、特定の用途に限定しない設備環境を整えます。個人学習環境だけでなく、グループワークやアクティブラーニングに適した設備、教材や課題の制作環境などに加え、イベントやワークショップが開催可能なスペースを用意し、新たな教育活動への柔軟な対応も視野に入れます。

》図書館フロア

2～4階は、文献を読むだけでなく、学び合うための空間を多く配置し、地下1階・1階で出会った知を拡げ、深めます。個人だけでなく、集団・グループによる活発で賑やかな活動も促します。5・6階は、主に専門的な文献、研究個室、プレゼンテーションルームなどを配置し、より専門性が高く静かな活動から発表・討論などまでが可能な環境を提供します。成果を地下1階・1階にて発信・還元することによって、インプットからアウトプットまで、棟全体として学術活動プロセスのトータルな支援を実現します。

館内紹介動画公開中

<https://youtu.be/sOzi2hLgqUY?si=vIL0i0hndChW0pFx>



ABSライフ

ABSには、楽しいイベントもあります。日頃の授業では緊張状態が強いられますが、その状態から解放される息抜きのひと時となります。また、他の学生の意外な側面を知る機会になり、いっそう親しくなっていきます。

》》 フィットネスセンター

大学のフィットネスセンターを利用することができます。各種マシンが揃っており、充実した施設です。授業のあとにマシンで汗を流せば、健康も維持できます。



》》 スポーツサークル

バスケットボール、ゴルフ、フットサルなど、スポーツを楽しむ集まりがあります。週末に他のビジネススクールと試合をしたり、夏休みに合宿をしたりしています。

》》 青山祭出店

秋の青山祭にABSの有志がドーナツ屋などを出店しています。在学生や修了生の交流が目的です。授業で学んだオペレーションズ・マネジメント、組織マネジメント、マーケティングなどを駆使して、10万円ほどの利益を出しています。



》》 授業のあとに

ABSの周辺には、数えきれないほどのレストランやショップがあります。授業のあとに、仲間とともに食事をしたり、ショッピングを楽しんだりすることもできます。土曜日の授業のあとは、家族や友人と待ち合わせしている光景をよく目にします。



修了後の学習機会

ABSでは修了後の学習機会も提供しています。変化が激しいビジネスの環境では継続的な学習が必要です。その時々経営課題や最先端の知識やケースに触れ、ビジネススキルのブラッシュアップをしていくことができます。

》》 科目等履修生制度

修了生は、選択科目を受講することができます(科目数と人数の制限があります)。在学中に履修できなかった科目や修了後に興味を持った科目、修了後に新設された科目など、常に新しい知識を得ることができます。



》》 青山フィロソフィー・フォーラム

修了生がコーディネートしている自主的な研究会が複数あります。最も活発に活動している「青山フィロソフィー・フォーラム」は、土曜日に年間5回程度開催し、哲学や社会思想、リーダーシップ論を中心にディスカッションしています。

》》 各種講演会

「授業外の学習機会(P22)」でご紹介した各種講演会(青山MBAフォーラム、マーケティングフォーラム、キャリアフォーラムなど)は、修了生も参加できます。企業経営者の講演や在学生の研究発表は、ビジネスのヒントを与えるくれるかもしれません。



》》 図書館

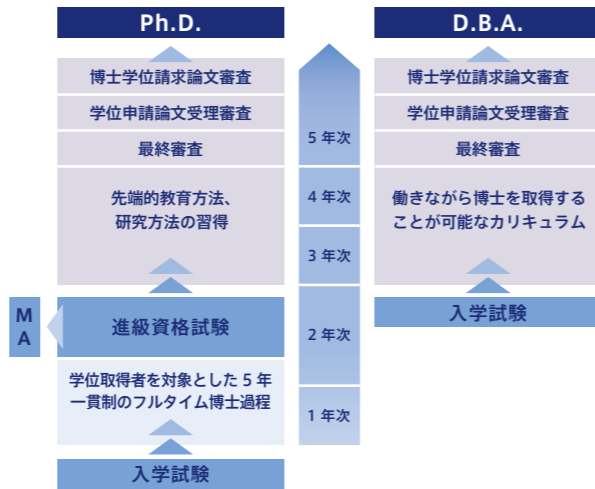
修了生は、申請を行うことにより大学の図書館が利用できます。青山キャンパスの青山学院大学図書館、相模原キャンパスの万代記念図書館と併せて176万冊の蔵書があるので、経営に関する書籍に留まらず、幅広い分野の書籍を借りることができます。交通アクセスの良さゆえに、多くの修了生が利用しています。

2024年4月に新図書館(マクレイ記念館)がオープンしました。

DBA Program 博士課程

ABSの博士課程には、創造性豊かな優れた学術研究者育成を目指す「学術理論研究指向」のPh.D.プログラムと、企業等で高度な専門性が求められる研究課題に取り組む研究者育成を目指す「実践的研究指向」のD.B.A.プログラムがあります。

研究指導プロセスは3名の指導教員による公開研究指導体制を導入し、学位論文のクオリティマネジメントを徹底しています。また、国内外での発表に対する財政面の支援も行っています。



プログラムの特徴

プログラム	特徴	標準修業年限
Ph.D.	学術研究者の育成が目的 5年一貫制で学士取得者が対象	5年
D.B.A.	実践的研究者の育成が目的 3年次編入で修士取得者が対象	3年

※修了要件はウェブサイトをご覧ください。

授与学位

プログラム	授与学位
Ph.D.	博士(国際経営学) Ph.D. (Doctor of Philosophy in Management) 修士(国際経営学)* M.A. (Master of Arts in International Management)
D.B.A.	博士(経営管理) D.B.A. (Doctor of Business Administration)

※Ph.D.に2年以上在籍し、修士学位を取得して退学する場合

学位論文のテーマ

- 「価値共創を通じた顧客エンゲージメントの形成ーコンサルティング・サービスにおける価値共創が顧客エンゲージメントに与える影響ー」 (2023年度)
- 「日銀の非伝統的金融政策が資産価格に与える影響」 (2023年度)
- 「マイクロブログにおけるブランドリツイート業種別生起モデルに関する研究」 (2018年度)
- 「コーポレートガバナンス理論に基づく投資家・経営者間のエンゲージメントに関する研究」 (2018年度)
- 「プロフェッショナル・サービスにおける組織アイデンティフィケーション構造ーリーガル・サービスでのバリュー・プロフィット・チェーンの検証ー」 (2018年度)
- 「日本におけるヘッジ会計の実証分析」 (2018年度)

Alumni 同窓会

青山ビジネススクール同窓会(ABS Alumni)は、ABSの修了生を中心とした組織で、会員相互の交流・研鑽・親睦を推進することでABSの発展と更なる価値向上に寄与することを理念としています。

会長挨拶



ABSは前身の国際ビジネス専攻科を含め、既に2,900名超の修了生を輩出しています。ABS Alumniは、修了生の皆様が、再び最新の経営理論や様々な業界の事例を学び、スポーツ等趣味の交流を深め、さらに在学生に向けビジネス最前線情報を伝えるために、青山に戻れる場所、集える場所、学び続ける場所でありたいと考えています。

Learn together, Enjoy together, Live together, ABS!

ぜひ一緒にABS Alumni活動を楽しんでいきましょう。

伊藤 正貴
ABS Alumni 会長

1992年東急百貨店入社。営業政策、顧客政策、事業開発、業務改革の他、多くのプロジェクトマネジメント業務に従事。専門店事業部長、EC通販事業部長、OMO推進事業部長を経て、現在は事業推進室長を担当。ABSは2006年度イブニングコース*修了。ABS Alumniは設立時より関わり、2018年Alumni会長に就任。

*2021年度より「フレックス・タイムコース」から「イブニングコース」に名称変更

主な活動

ABS Alumniでは、在学生・修了生の垣根を超えたオンライン・オフラインの幅広い活動が行われています。入学時点からAlumniメンバーとしての参加を歓迎しております。

青山ビジネスプランコンテスト

青山学院大学を起点として産学連携によるオープンイノベーションを実現する取り組みを実施しています。主な取り組みとして、青山学院大学と連携して、革新的なビジネスプランを競い合う「青山ビジネスプランコンテスト」を運営しています。コンテスト入賞者には賞金や豪華副賞も提供されます。また、スタートアップ・ビジネスパーソン・クリエイターやその仲間達がカジュアルに集い夢の実現へ向けて相互サポート出来る場を創出する、イノベーションサロンのMeet-upイベント「xtrive lounge」も定期的に開催しています。

ABS Alumniは、アントレプレナーシップの醸成を促すとともに、青山学院大学からイノベーションを創出し、社会へ貢献して行きたいと考えています。

青山輪読フォーラム

ABS Alumniでは、修了生の継続的な学びの機会として月1回「青山輪読フォーラム(ARF)」を開催。日々の実務で不可欠な思考力を修了後も継続的に磨き、高めるだけでなく、世代を超え修了生と現役生、さらに教員も参加し、共に学び、知見や経験を共有することで新たな視点を得ると共に繋がりと絆を深める貴重な機会になっています。

- 総会・ホームカミングデー(基調講演および懇親会)
- 青山学院大学同窓祭での公開講座
- Alumni講座(修了生および一般に開放されたオープン・セミナー)
- 業種・職種・専門分野別の勉強会・ミートアップイベント(教員・在学生・修了生・起業家・VC・業界関係者・政府関係者など参加)
- 在学生・修了生の交流会、在学生主催イベントへの参加
- 趣味、ボランティア等のコミュニティ活動
- バスケットボール・フットサル・ゴルフなどの定期的なスポーツ活動
- Alumni公式SNSでの交流(FBグループ、Linkedin等)

専用ウェブ会員システム TSUNAGU

「TSUNAGU」は修了生・在学生・教員専用のABS Alumni公式名簿システムです。同窓生を入学年・業種別などで検索しコンタクトを取り合ったり、自己プロフィールページ機能、メールマガジン配信やビジネス交流掲示板を利用したり等、在学中からABSネットワークを活用する事が出来ます。

<ABS Alumni HP>

<https://www.alumni-aoyamagakuin.jp/abs>

<ABS Alumni Facebook>

<https://www.facebook.com/ABSAlumni>



専任教員紹介

2025年度



教授
市野 初芳

明治大学大学院経営学研究科博士後期課程中退。税理士(1987年税理士登録、東京税理士会会員)。税理士事務所開業後、企業の税務顧問として税務実務に従事。その後、愛知学院大学商学部専任講師、助教授、教授。この間、マレーシア・マラヤ大学客員研究員、総務省自治大学校講師を経て、2011年より現職。2014年名古屋経済学大学院法学研究科博士課程修了、博士(法学)。担当科目は、「アカウントティング」「財務諸表論」「海外研修セミナーⅡ・Ⅲ(マレーシア)」等。



教授
伊藤 晴祥

青山学院大学国際政治経済学部卒業。ハワイ大学シャイラー経営大学院からPh.D. in International Management、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科から博士(政策・メディア)取得。国際大学講師、准教授、MBA1年制プログラムディレクター、イトックス株式会社代表取締役(現職)、本学准教授を経て現職。専門分野は、コーポレートファイナンス、リスクマネジメント、リアルオプション。Journal of Risk and Insurance等に論文を出版。ISOにおけるサステナブルファイナンス等の専門家委員会エキスパート。担当科目は「コーポレート・ファイナンス」「コーポレート・ガバナンス」「アドバンス・コーポレート・コミュニケーション」等、サステナビリティ・マネジメント講座コーディネーター。



教授
岩井 千明

慶應義塾大学法学部政治学科、青山学院大学大学院国際政治経済学研究科修士課程(MBA)修了。横浜国立大学大学院博士課程修了(博士:経営学)。青山学院大学国際政治経済学部専任講師、助教授を経て、2004年より現職。日本電気株式会社で官公庁大型プロジェクト営業、マイクロソフト株式会社でインターネットマーケティングマネージャーを歴任。研究分野はビジネスゲームの開発、アートとビジネス。主要担当科目は「ビジネスデータ分析」「マネジメント・ゲーム」等。



教授
黒岩 健一郎

早稲田大学理工学部建築学科卒業。住友商事株式会社勤務。慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了(MBA)。同後期博士課程単位取得退学、博士(経営学)。武蔵大学経済学部専任講師、准教授、教授を経て2014年から現職。専門分野はマーケティング論。特に、サービス・マーケティング、市場志向。主著に、『マーケティングをつかむ』『サービス・マーケティング』等がある。担当科目は、「マーケティング」「サービス・マーケティング」等。



教授
澤田 直宏

慶應義塾大学商学部卒、同大学院経営管理研究科修士課程修了、一橋大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(商学)。全国信用金庫連合会(現 信金中央金庫)、A.T. カーニー株式会社、横浜市立大学を経て2015年より現職。専門は経営戦略論。R&D Management, European Journal of Innovation Management等に論文を掲載。主著に『ビジネスに役立つ経営戦略論—企業の戦略分析入門』がある。担当科目は「経営戦略」「競争戦略」等。



教授
島田 由紀

東京大学文学部西洋史学専修課程卒業。同人文社会科学系大学院西洋史学専攻修士課程修了。同人文社会科学系研究科倫理学専攻修士課程単位取得退学。米国プリンストン神学大学院より博士号(Ph.D.)取得。聖学院大学人文学部欧米文化学科准教授および青山学院大学国際マネジメント研究科准教授を経て、2025年度より現職。大学宗教主任。専門分野は現代キリスト教思想と倫理学。担当科目は「ビジネス倫理」「宗教と文化から見るビジネスと倫理」等。



教授
須田 敏子

青山学院大学経営学部卒業。日本能率協会マネジメントセンターにて月刊誌「人材教育」の編集長等を歴任。イギリスのリス大学で修士号(MA in HRM)、パース大学で博士号(Ph.D.)を取得。2005年より現職。主な専門分野は、組織論・組織行動論・人材マネジメント・国際経営比較等。「人的資本経営」「人材マネジメント」などの科目を担当。主要著書に『ジョブ型・マーケット型人事と賃金決定: 人的資本経営・賃上げ・リスクリングを実現するマネジメント』『マネジメント研究への招待: 研究方法の種類と選択』『組織行動: 理論と実践』『戦略人事論: 競争優位の人材マネジメント』(すべて単著)等がある。



教授
中里 宗敏

東京工業大学工学部経営工学科卒業。同大学院理工学研究科経営工学専攻修士課程修了(工学修士)。同大学工学部助手、青山学院大学国際政治経済学部専任講師、助教授、米国ミシガン大学ビジネススクール客員研究員、国際マネジメント研究科助教授を経て、2004年から現職。2019年から2024年まで研究科長。2023年から青山学院大学副学長。専門分野はファイナンス。特に証券バブルの研究を長年行っている。著書に「コーポレート・ファイナンスの考え方」等。担当科目は「ファイナンス」「証券データ分析」「FAST」等。



教授
中野 勉

慶應義塾大学経済学部卒、シカゴ大学修士。米系金融機関8年勤務の後、コロンビア大学博士課程修了(Ph.D. in sociology)、ミシガン大学、関西学院大学を経て現職。Faculty Associate, University of San Diego Knauss School of Business; Visiting Researcher, IOA, Copenhagen Business School; Affiliate, COI, Columbia University。「企業戦略」「マネジメントと組織論」「Global Management」「ビジネスプランニング」「演習」を担当。2025年前期は、サブティカルとして、スタートアップとエコシステムの日米欧比較、新規事業とネットワーク、プラグマティックな価値評価と市場の研究中。過去にENS Paris/Saclay, Frankfurt am Main, Max Planck-Cologneの visiting professorなど。『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミクス』、『ソーシャル・ネットワークとイノベーション戦略』(単著)、『グローバル経営組織論』(編著)、『Japanese Management in Evolution』(編著)



教授
福井 義高

東京大学法学部卒業。日本国有鉄道に入社し、国鉄分割民営化後2000年まで東日本旅客鉄道に勤務。東北大学大学院経済学研究科助教授(2000年~2002年)を経て、2002年より現職。カーネギーメロン大学GSIA(現Tepper School)にてM.S.及びPh.D.取得。専門分野は会計制度・情報の経済分析。その他関心のある分野は進化論、現代政治史、マクロ経済学等。担当科目は「企業経営の経済学」「財務会計」等。



教授(研究科長)
細田 高道

東京理科大学卒業。米国マサチューセッツ工科大学にてMSc取得後、英国国立カーディフ大学カーディフ・ビジネススクールよりPh.D.(Business & Management)の学位を取得。英国高等教育アカデミー・フェロー。研究分野はオペレーション戦略。近年はグローバル・サプライチェーンについての研究プロジェクトをリードしており、サステナブル・サプライチェーン研究所所長でもある。数多くの国際ジャーナル審査員も務める。担当科目は「オペレーションズ・マネジメント」「オペレーション戦略」等。



教授
森田 充

九州大学経済学部を飛び級入学のため退学、同大学院経済学府修士課程修了、および、同経済学府博士後期課程経済工学専攻修了(博士:経済学)、九州大学大学院経済学研究科院学術特定研究員、2007年度より青山学院大学大学院国際マネジメント研究科助教、2012年度より准教授を経て2019年度より現職。専門は計量経済学、最近ではファイナンス、ビジネスゲーム、人事関連の実証分析に取り組んでいる。担当科目は「統計分析Ⅰ・Ⅱ」「企業分析とファンド・マネジメント・シミュレーションⅠ・Ⅱ」等。



准教授
中塚 昭宏

慶應義塾大学理工学部管理工学科卒業、同大学院理工学研究科開放環境科学専攻前期・後期博士課程修了。博士(工学)。富士ゼロックス株式会社SCM部門に勤務。青山学院大学大学院国際マネジメント研究科助教を経て、2023年度より現職。青山学院大学持続的サプライチェーン研究所副所長。研究分野は、需要予測、在庫管理、SCM。担当科目は「オペレーションズ・マネジメント」「オペレーションズ・リサーチ」「サプライチェーン・モデリング」「経済性分析」等。



准教授
廣瀬 雄大

メルボルン大学商学部ビジネス・経済学科卒業。同大学工学部化学工学科卒業。東京大学大学院新領域創成科学研究科修士課程修了。ケンブリッジ大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士(工学)。化学メーカー、商社、UNIDO、東京大学講師、首都大学東京准教授、ケンブリッジ大学フェローを経て現職。専門分野は、アントレプレナーシップ、イノベーション、テクノロジー・マネジメント。これまでにIEEE・RTM等の国際ジャーナルに論文を掲載。担当科目は「経営戦略」「戦略ロードマッピング」「グローバルアントレプレナーシップ」等。



助教
大橋 英司

早稲田大学商学部を卒業生副総代で卒業。同大学商学研究科修士課程商学専攻修了。カナダ・アルバータ大学ビジネススクールより博士号(Ph.D. in Accounting)を取得。2021年より現職。専門分野は会計学。研究の関心は管理会計の基礎である業績評価の理論。特に、業績評価システムやインセンティブ契約の設計において、心理的要素がどのような影響を持つかという問題に関心を持っている。担当科目は「アカウントティング」「管理会計」等。



助手
金 佳榮

成均館大学社会科学部新聞放送学専攻卒業。東京大学大学院学際情報学府修士課程修了(修士:社会情報学)。同大学院博士課程満期退学後、テレビ朝日報道局外報記者、東京大学大学院情報学環B/AI Global Forum特任研究員を経て、2024年より現職。専門はメディア研究。コマーシャルリズム批判の観点から日本のテレビ産業について研究している。ABSでは海外教育機関の認証や海外研修・招聘の支援を担当。



教授
宮副 謙司

九州大学法学部卒業。慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了(MBA)。東京大学大学院経済学研究科博士課程修了(博士:経済学)。西武百貨店、PwCコンサルティング、東京大学大学院特任研究員等を経て2009年4月より現職。専門分野は、マーケティング、流通論、地方創生論。担当科目は、「地域活性化のマーケティング」「SDGsコミュニティマーケティング」「ファッションリテイリング」等。主な著書として『青山企業に学ぶコミュニティ型マーケティング』『新しい流通論』『企業経営と地域活性化』等がある。



准教授
北野 泰樹

上智大学経済学部経済学科卒業、東京大学大学院経済学研究科現代経済専攻修士課程、博士課程修了。博士(経済学、東京大学)。政策研究大学院大学政策研究科講師、助教授、一橋大学イノベーション研究センター特任准教授を経て2016年より現職。専門は応用ミクロ経済学分野の産業組織論と国際貿易。実証分析を中心に研究を行い、Journal of International Economics誌等に論文を掲載。担当科目は「企業経営の経済学」「ゲーム理論とマネジメント」等。



准教授
西井 真祐子

静岡大学人文学部卒業。早稲田大学大学院商学研究科ビジネス専攻修了、経営管理修士(専門職)。同大学院商学研究科博士後期課程修了、博士(商学)。早稲田大学商学学術院助手、千葉商科大学商経学部専任講師、准教授を経て、2024年から現職。専門分野は消費者行動論、マーケティング論。著書に『感覚訴求が消費者の感情と認知に及ぼす影響: 無自覚な連鎖反応のメカニズム』がある。担当科目は、「マーケティング」「消費者購買行動」等。



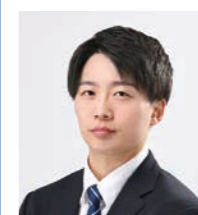
助教
Nichols, David

Assistant Professor Nichols Graduated from the University of Washington with a BA in International Studies, and received an MBA from UCLA. He spent 30 years in the finance industry in roles including CEO, CAO and COO. He will be teaching Managerial Economics, Leadership and Organizational Behavior, and Global Communications



特任教授
熊平 美香

青山学院大学法学部卒、ハーバード大学経営大学院修士課程修了。日本マクドナルド創業者に師事し、新規事業開発を行った後に独立。昭和女子大学キャリアカレッジではダイバシティ経営の推進、21世紀学び研究所ではリフレクションと対話の普及に取り組む。子どもの貧困問題の解決に挑戦するLearning For All、社会起業家を育むASHOKA等のNPO活動にも参画。文部科学省中央教育審議会委員等を務める。専門は、企業および社会変革・学習する組織・リーダー養成・自律型組織開発等。担当科目は、ソーシャル・イノベーション、内省の技術、学習する組織とリーダーシップ等。



助手
竹田 琢

青山学院大学国際政治経済学部国際政治学科卒業後、同大学院社会情報学府研究科博士前期課程ヒューマンイノベーションコース修了。修士(学術)。2023年より現職。東京大学大学院情報学環特任研究員。早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程在籍。専門分野は認知科学、教育工学。会話分析を用いた教育場面のインタラクション研究を行っている。ABSでは教育・学習環境支援に関わる業務を担当する。

Admission 入試情報

入試日程 選考方法:「書類審査」および「面接審査」

出願期間 ＜最終日必着＞	面接	合否発表 ＜WEB＞	手続期限 ＜最終日必着＞
2025/9/16(火) – 2025/9/24(水)	2025/10/18(土) 2025/10/19(日) イブニングコースは19日のみ	2025/10/23(木) 13:00	2025/11/7(金)
2025/11/5(水) – 2025/11/12(水)	2025/12/6(土) 2025/12/7(日) イブニングコースは7日のみ	2025/12/11(木) 13:00	2025/12/22(月)
2026/1/5(月) – 2026/1/14(水)	2026/1/31(土) 2026/2/1(日) イブニングコースは1日のみ	2026/2/5(木) 13:00	2026/2/16(月)

※デタイムコースの面接審査は2日間にわたって行われますが、受験日はどちらか1日となります。
※博士課程の入試日程はウェブサイトをご覧ください。

入試説明会

- 2025/7/19 (土) MBA
- 2025/8/16 (土) 青山アクション・ラーニング説明会
- 2025/10/25 (土) 博士課程
- 2025/10/29 (水) MBA
- 2025/12/17 (水) MBA

※スケジュール、コンテンツは変更になる場合があります。

School Fees 学費

研究科(専攻等)	2025年度 納入金合計
国際マネジメント研究科 MBAプログラム	1年次 1,868,000円 2年次 1,548,000円

※博士課程の学費はウェブサイトをご覧ください。

専門実践教育訓練給付金制度

労働者や離職者が自ら費用を負担して、厚生労働大臣が指定する教育訓練講座を受講し修了した場合、本人がその教育訓練施設に支払った経費の一部を支給する雇用保険の給付制度です。

本専攻イブニングコースに入学した正規生で、支給対象者(受給資格者)の条件を満たす学生はハローワークに申請することにより、青山学院大学に支払った教育訓練経費の一部(最大128万円)を給付金としてハローワークから受け取ることができます。

奨学金

＜貸与＞

- 日本学生支援機構第一種奨学金(無利子)
- 日本学生支援機構第二種奨学金(有利子)

＜給付＞

- 青山学院大学経済支援給付奨学金
- 青山学院万代基金給付奨学金
- 民間育英団体奨学金

Access アクセス

交通アクセス

- 東京メトロ(銀座線・千代田線・半蔵門線) 「表参道駅」より徒歩約5分
- JR山手線、JR埼京線、東急線、京王井の頭線、東京メトロ副都心線 他 「渋谷駅」より徒歩約10分



キャンパスマップ



お問合せ先

青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科
＜学務部専門職大学院教務課＞

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
Tel 03-3409-8025 <https://www.aoyamabs.jp>



※この入学案内の内容は、2025年度の情報をもとに作成されており、今後変更される場合があります。



青山学院スクール・モットー

地の塩、世の光

(マタイによる福音書 第5章 13節～16節)



青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科
〈お問合せ先:学務部専門職大学院教務課〉
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
Tel 03-3409-8025



<https://www.aoyamabs.jp>



<https://www.facebook.com/AoyamaBS>



https://x.com/aoyama_mba



<https://www.linkedin.com/school/aoyama-business-school>

